

- ・評価点の設定に役に立った。
- ・評価方法を参考にした。
- ・評価方法を状況に応じて使用
- ・服薬指導など実践的な実習の評価の仕方を明確にして、公平で解りやすい評価ができた
- ・服薬指導や薬歴の書き方を形成的評価する上で、測定のポイントを決めてやりやすかった。
- ・複数の薬剤師で実習を行ってきたので評価を一定にするため活用した。
- ・方略により評価方法をSGDにしたり、口述にしたりした。
- ・毎週の評価はとにかく良いところを列挙して自信をつけてもらった 最後の評価は客観的に書いた
- ・毎日 15 分程度、一日の反省をした中で達成できなかったことを翌日にはどう生かすかを話し合いました。
- ・目的、時期、方法
- ・目標達成の過程も含めて評価するのに活用した。
- ・薬局スタッフ一丸となった、形成的評価を取り入れることで学生の理解度も上がったと実感している
- ・理解度の確認や成長度の記録の作成時など。

【記述 09】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
 (5)カリキュラムプランニングで担当されたユニットについて
 どのようなユニットを担当されましたか。
 その他の場合は、具体的にお示し下さい。

- ・2年も前のことを聞かれても、もう覚えていません
- ・5年以上前に参加したWSなので詳しく覚えていない。
- ・5年前です。覚えていません。
- ・6年生実務実習の問題点
- ・6年生薬学教育の問題点
- ・H17年度ワークショップではこのようなユニットはなかったと思う
- ・k-j法
- ・KJ法について
- ・OTC、健康食品についてのこと
- ・コース「薬物治療」 ユニット「個別化薬物治療入門」 関連ユニット「病原微生物・悪性新生物と戦う」「疾患と薬物治療」
- ・すごく前なので思い出せません。
- ・ずっと以前で、その後タスクになったため WS 参加時にどのユニットを行ったかは、定かではない。
- ・すべて
- ・すべて
- ・すみません、もう忘れしました。
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)

- ・セルフメディケーション、薬局アイテムと管理
- ・セルフメディケーション、薬局アイテムと管理、在宅医療
- ・だいぶ以前のことではっきり覚えていない。
- ・テラーメイド薬物治療入門
- ・どれだったか忘れしました。
- ・プランニングには直接関わらなかった
- ・ほとんどすべてを1店舗でプランニング(チェーン薬局なので本部の指導の下に)
- ・ほぼすべて
- ・ほぼ全部担当した
- ・メモを見て思い出しましたが、担当はプロットしたユニットだったと思います
- ・もう何年も前のことなので覚えていない。
- ・もう忘れしました。
- ・ユニット分けがなかったと思います
- ・リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)
- ・リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、早期体験学習(薬学導入教育)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、早期体験学習(薬学導入教育)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実務実習)

- ・ 病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネジメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)、薬剤管理指導業務(病院実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、リスクマネジメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)、薬剤管理指導業務(病院実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、早期体験学習(薬学導入教育)、リスクマネジメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、薬剤管理指導業務(病院実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、セルフメディケーション(薬局実務実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、リスクマネジメント(実務実習事前学習または病院実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、在宅医療(薬局実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、早期体験学習(薬学導入教育)、リスクマネジメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師、セルフメディケーション、早期体験学習、リスクマネジメント、薬局アイテムと管理、在宅医療、薬剤管理指導業務
- ・ 医療倫理と薬剤師、セルフメディケーション、薬局アイテムと管理、在宅医療
- ・ 医療倫理と薬剤師、チーム医療、セルフメディケーション
- ・ 医療倫理と薬剤師、チーム医療、セルフメディケーション、早期体験学習、薬局アイテムと管理、在宅医療
- ・ 何をしたか覚えていない
- ・ 何を担当したか忘れた
- ・ 会社で作成したので、個人では作成していない。
- ・ 覚えていない
- ・ 覚えていない
- ・ 覚えていない
- ・ 覚えていないので回答できません
- ・ 覚えていません
- ・ 覚えていません
- ・ 覚えていません。
- ・ 覚えていません。
- ・ 覚えてない
- ・ 覚えてません
- ・ 覚えてません。
- ・ 学習方略とは。方略作製
- ・ 記憶が定かではないのですが、上記ではなかったと思います。
- ・ 記憶にありません。
- ・ 休日急病診療所などの見学
- ・ 教育の問題点 カリキュラムの作成・目標 方略 評価
- ・ 個別化薬物治療入門
- ・ 高齢者疑似体験、認知症アドバイザー
- ・ 在宅における他職種共同。在宅におけるフィジカルアセスメント。
- ・ 在宅も担当しました
- ・ 在宅医療とセルフメディケーションを担当しましたが、選択できないんですが？
- ・ 思い出せない
- ・ 指導薬剤師 1 人なのですべて担当。
- ・ 実際の過誤の例やヒヤリハットの例を出し、どのようにすれば解決できるのか考えてもらった
- ・ 実務実習における問題点とその改善策について
- ・ 実務実習に対する問題点への対応
- ・ 実務実習の全て
- ・ 実務実習の問題点(KJ 法)
- ・ 実務実習の問題点(K-J 法)
- ・ 実務実習事前学習
- ・ 主に、会社の本部が行った
- ・ 受け入れた時に担当なし
- ・ 上記でなぜ2つを選択できないのか？
- ・ 上記に関する事はやってなかった様な気がします。
- ・ 上記の薬局実習部分すべて
- ・ 上記記載事項を全部担当
- ・ 情報を正しく使う(病院実習)
- ・ 申し訳ありません。忘れました。
- ・ 申し訳ないけれど、忘れました。
- ・ 随分前のため担当ユニット忘れました。
- ・ 正直なところ、覚えておりません。
- ・ 昔のことで、その後のタスク経験と混同し、忘れてしまいました。
- ・ 接遇(調剤過誤、苦情もふまえて)
- ・ 選べません。
- ・ 全て
- ・ 早期体験学習(薬学導入教育)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・ 早期体験学習(薬学導入教育)、薬局アイテムと管理(薬局実務実習)
- ・ 担当しなかった
- ・ 担当無し
- ・ 地域で活躍する薬剤師
- ・ 地域で活躍する薬剤師
- ・ 地域で活躍する薬剤師
- ・ 地域医療
- ・ 地域医療
- ・ 地域住民の健康維持・増進のために、薬剤師として提供できる実践的な知識・技能・態度を修得する。
- ・ 地域保健2
- ・ 当時のカリキュラムプランニングに関しての資料が残っていないため、どのユニット担当であったか不明
- ・ 当時は方略作成セッションだったと思います。
- ・ 認定薬剤師が 1 名なためすべて(病院業務以外)
- ・ 評価とは 評価作成
- ・ 病院関係以外全てに担当
- ・ 方略について
- ・ 忘れました
- ・ 忘れました
- ・ 忘れました
- ・ 忘れました。
- ・ 忘れました。
- ・ 忘れました。チーム医療だったような気がします。
- ・ 忘れました・・・すいません
- ・ 問題点への対応
- ・ 薬学教育の今後、特にどのような教育が必要になるかについて
- ・ 薬学教育の問題点
- ・ 薬学教育の問題点
- ・ 薬学教育の問題点
- ・ 薬学教育の問題点

- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点
- ・薬学教育の問題点(KJ法)と医療人教育の改革
- ・薬学教育の問題点について
- ・薬局、大学、学生で実務実習の問題解決を考える
- ・薬局アイテムと管理(薬局実務実習)、薬剤管理指導業務(病院実務実習)、服薬指導(カウンターでの)
- ・薬局カウンターでのコミュニケーション
- ・薬局カウンターでのコミュニケーション
- ・薬局実習での倫理、チーム医療、セルフメディケーション、リスクマネジメント、アイテムと管理、在宅医療
- ・薬局実務実習の全てにおいて担当
- ・薬局実務実習全般
- ・薬局製剤
- ・薬剤師として必要なコミュニケーション(新人薬剤師研修)
- ・有意義だったことは覚えているが、詳細を記憶していない
- ・理解が乏しく、うまくまとまらなかった。

【記述 10】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
- (5)カリキュラムプランニングで担当されたユニットについて
- ③ 今後取り入れるべきコース(領域)があれば、お示しください。

- ・OTCをもう少し(ドラッグストアの強力が必要)。MRや治験コーディネーターなどの他業種。
- ・PTPの種類と工夫、介護認定の方法
- ・コミュニケーション
- ・コミュニケーションに関する領域
- ・コミュニケーション学
- ・ターミナルケア
- ・ターミナルケア 薬剤師にできること
- ・バイタルサイン
- ・バイタルサイン・医療理念
- ・バイタルなどフィジカルアセスメント
- ・安全対策
- ・医薬品評価
- ・医療安全管理指針・業務手順書・手順書資料
- ・医療人マナー
- ・過誤の対処法について
- ・過誤の対処法について
- ・介護の現場を体験実習すべき(見学ではダメ、最低2週間以上)
- ・各医療ガイドライン
- ・学校薬剤師
- ・患者・お客様とのコミュニケーション・接遇について
- ・患者・顧客とのコミュニケーション方法
- ・患者さんとの接遇対応
- ・管理者、リーダー、指導者などの役割
- ・緩和ケア。死生観など。

- ・現状
- ・現状を充実すべき
- ・後発医薬品について
- ・後発品への変更を進める、剤型、容量変更、
- ・行政業務(保険所など)・医薬品流通(卸など) 薬剤師は病院・薬局だけではなくそれ以外に就職される学生のため
- ・国家試験が最終目標でなく、スタートラインであること。先の様々な勉強会の大切さは学習のひとつとして入れないと、学生には分からないかと。
- ・災害時、現場まで行けない薬剤師でも何か協力できることがあるかどうか、具体案など。
- ・災害時の対応
- ・災害時医療
- ・在宅医療・ターミナル医療
- ・指導方法が学べるように、薬学実務実習版の研究授業と、適正に評価するための評価方法の実際。
- ・事前学習の領域を
- ・質問の意味が分かりません。コースとは何のことですか？どの中から取り入れるのですか？
- ・社会人としての薬剤師(一般常識等)
- ・社会性～対話力のパワーアップ
- ・場としての薬学教育と臨床との融合
- ・診療報酬に関係する内容
- ・人間的なマナーや思いやりをもった接客
- ・接遇・医療スタッフとしての心構え
- ・接遇とマナー
- ・専門分野薬剤師
- ・早期体験学習はすでに取り入れ済み
- ・他職種との連携(コミュニケーションのとりかた)
- ・地域で活躍する薬剤師
- ・地域で活躍する薬剤師
- ・地域で活躍する薬剤師
- ・地域における薬剤師の役割
- ・地域に根付いた薬局
- ・地域医療
- ・地域医療、学校薬剤師
- ・地域医療への参加
- ・地域医療者:在宅担当医、訪問看護師、ケアマネージャー等の業務を勉強し、連携のあり方について考えるコース(在宅ではありませんが、他の医療者の実務の理解が今のカリキュラムでは不足していると思います)
- ・地域活動
- ・地域住民への情報発信
- ・地域対応実習(学校薬剤師など)
- ・投薬や服薬指導における、コミュニケーション。
- ・難しい領域ですが終末医療
- ・病院実習、OSCE,CVT(WSで議論してはどうか?)
- ・服薬指導実践(薬局実務実習)
- ・保険制度
- ・法律関係
- ・麻薬使用に関する終末期治療(ホスピスも含め)と在宅緩和ケア治療
- ・薬の研究開発関連や医薬情報管理の重要性を広範囲へ
- ・薬局間の連携や他の医療従事者(ケアマネージャーや訪問看護ステーションなど)の業務の実体験
- ・薬局実務実習
- ・薬局実務実習
- ・臨床心理
- ・臨床病理学に基づいた薬剤の妥当性が評価できる
- ・老年医学、薬学

【記述 11】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
 (5)カリキュラムプランニングで担当されたユニットについて
 ④ 今後取り入れるべきユニットがあれば、お示ください。

- ・ MS, MRのお仕事が意外と学生は興味有りで薬局と係わる外部職のことは、気になるようです。
- ・ イニシャルプラン作成
- ・ カウンター業務(薬局実務実習)
- ・ カウンター実習
- ・ かかりつけ薬局
- ・ がん化学療法、医療材料・医療機器
- ・ コストパフォーマンスを意識させるようなもの
- ・ コミュニケーション、接客態度
- ・ コミュニケーションに関するユニット
- ・ コミュニケーションメソッド
- ・ チーム医療
- ・ バイタルサインの知識なり研修
- ・ バイタル関連、専門薬剤師分野など
- ・ ハイリスク医薬品の調剤と列挙
- ・ ハイリスク薬の管理と服薬指導の実践
- ・ ロコモティブシンドローム
- ・ 安全対策
- ・ 医療経済
- ・ 一般用医薬品、セルフメディケーション
- ・ 学校薬剤師
- ・ 学校薬剤師・地域保健(薬局実務実習)、セルフメディケーション(実務実習事前学習)
- ・ 患者アンケート 実務実習に関して、自分の説明を患者さんに評価して頂く。
- ・ 患者さんのクレーム対応
- ・ 患者対応コミュニケーションについて
- ・ 患者居宅での薬剤師の仕事・ホスピタリティ
- ・ 救命救急
- ・ 居宅療養の薬学管理
- ・ 現状
- ・ 現状で充分と思います。
- ・ 後発品について患者に説明をし、薬学的に変更可能かどうか後発品について評価できる
- ・ 工場見学(薬局製剤との比較)により品質管理を理解する。
- ・ 災害時の医療
- ・ 災害時の医療
- ・ 災害時の薬剤師の役割
- ・ 災害時の薬剤師業務
- ・ 災害時医療
- ・ 在宅医療
- ・ 在宅医療
- ・ 在宅医療に介護関連をプラス
- ・ 事前学習
- ・ 実際に実習のカリキュラムに含まれる項目(情報のアクセスと活用 etc...)を取り入れた方が良いと思う。
- ・ 社会に活躍する薬剤師
- ・ 社会人としてのマナー
- ・ 上記と同じ
- ・ 情報のアクセスと活用
- ・ 情報収集と活用
- ・ 相互作用、妊婦・授乳婦などの服薬指導、ヒヤリ・ハット事例への解消策・工夫点
- ・ 他の医療部門との協力
- ・ 他職種連携
- ・ 多職種連携
- ・ 知識の応用力と活用力の養成
- ・ 地域で活躍する薬剤師
- ・ 地域で活躍する薬剤師(学校薬剤師など)

- ・ 地域で活躍する薬剤師、薬局カウンターで学ぶ
- ・ 地域における薬剤師の役割(特に学校薬剤師、スポーツファーマシスト)
- ・ 地域医療
- ・ 地域医療連携(休日当番など)
- ・ 地域活動
- ・ 地域保健
- ・ 地域保健
- ・ 地域保健
- ・ 地域保健
- ・ 調剤過誤
- ・ 投薬や服薬指導の実際
- ・ 投薬指導におけるの標準化
- ・ 特に服薬指導におけるコミュニケーション力
- ・ 病院で「情報を正しく使う」薬局で「情報のアクセスと活用」とされている内容。又「リスクマネジメント」は薬局でも重要。
- ・ 病理とくすりと最新の薬へのフォロー
- ・ 服薬指導
- ・ 服薬指導(最も多い分野)
- ・ 服薬指導と薬学的管理
- ・ 服薬指導や地域での薬剤師の役割など
- ・ 保険の仕組み・公費など
- ・ 保険薬局の経営と保険点数(診療報酬のあり方)
- ・ 防災、学校薬剤師
- ・ 薬局と病院の連携
- ・ 薬局製剤、漢方製剤
- ・ 薬剤師が行うバイタルチェック
- ・ 薬剤師の在宅医療への関わり
- ・ 薬剤師の地域貢献
- ・ 薬事・開局の流れ
- ・ 薬業連携
- ・ 薬業連携
- ・ 薬業連携
- ・ 薬業連携
- ・ 薬業管理の手法
- ・ 臨床研究など、研究、開発的な要素もあるといいとおもいます。
- ・ 臨床心理

【記述 12】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
 (6)ワークショップにおけるカリキュラムプランニングについて、ご要望、ご意見がありましたら、ご記入下さい。

- ・ (5)の①について担当した部分は病院実務実習以外は全て関与した。①が複数回答でないのはおかしい。
- ・ 11 週の具体的な例の紹介
- ・ 1 回だけの研修ではなかなか身につかない、継続的な研修も必要ではないかとおもう
- ・ 22 年度は集合研修がなかったため、薬局内でカリキュラムを独自に立てる必要がありましたが、本年度は集合研修がかなり入るようになりましたので、どちらかと言えば、そちらにあわせて研修スケジュールを組むようになりました。
- ・ 5 年前に受けたワークショップの内容について、今頃聞かれても忘れていて困ります
- ・ SGDで行うことで、より良いプランニングが出来あがったと思う。
- ・ WSを行う意義・意味の説明が無く始まったので、何を理解すれば良いのか、今後どのように活用すれば良いのか分からないまま終わりました。
- ・ あまり必要ないと思います
- ・ カリキュラムにとらわれず、今後の展望も踏まえて広い視野で取り組んでほしいです。

- ・カリキュラムに沿って指導を行ってきたが、学生自身の学習意欲は限られている為、あまり細かいことをしても意味がなかったような気がしている。それなら実際に社員として入社してきたという感じで教えていった方がスムーズに最終目標である服薬指導にたどり着けると思う。もっと早く気づいていれば、今の実習生も有意義な時間を過ごせたと思う。ただ、1週・2週までの法律関係は一応押さえておきたいので今後もカリキュラム通りに進めたい。
- ・カリキュラムの成り立ちは理解できたが それを実習に活かせる参加者がどれくらいいるのかは疑問です。
- ・カリキュラムはよいがもう少し指導者のフォローが有ったほうが少ない時間により多くを学べたと思う
- ・カリキュラムプランニングに関しては、結局その作業だけで時間が終わってしまい、一番大事なことを理解できずに終わってしまう状況にあったと思います。それが残念ですし、そのせいでWSの意義を見いだせずに終わる人が多くなっているのではないのでしょうか？
- ・カリキュラムプランニングは有意義だが、方略に到達したか確認はしていけるが、実習に活用するまでには至らない。評価方法や教育方法を指導薬剤師に任せるのであれば別であるが。
- ・カリキュラムプランニングを学んで、実務実習に限らず、他の場面でも大変役に立つと思った
- ・カリキュラムを作成すること自体が難しかった。テーマによってカリキュラムを作成しやすいものと作成しにくいものがあると思う。
- ・カリキュラム的に丸2日というのは大変だった。交流を兼ねてということであれば地域性なども重視して地域で集まる時間をつくるなどしてもよいのかなと思った。初めてお会いする方がほとんどのためはじめのグループが違うと同じ地域でも話す機会が難しかったため地域ごとの時間があればもっと有意義だったと思う。
- ・コアカリキュラムではOTCカウンタ実習が重視されているが処方調剤でも実践できるはず。このような議論が必要。
- ・コアカリキュラムと自薬局のカリキュラムとの整合性を持たせるノウハウを講義していただきたい
- ・こういったワークショップが数多く参加出来る方が身に着くように思います。
- ・このカリキュラムで良いと思います。
- ・これ以上複雑にならないような方向に進んでくれたらと思います。
- ・スタッフで不慣れな方がいたのでストレスになった。(たとえば言うたびに意見が変わる)
- ・セルフメディケーションはコマ数が多すぎるので、他のユニットを増やした方がよい。
- ・その時は理解できていたのかもしれないが、時間が経ってしまったら殆ど忘れてしまい、実際の指導ではあまり役に立ってなかったのかも知れない。繰り返しのフォロー研修が必要か？
- ・だいぶ前の事で良く覚えていません。
- ・できあがったモデルを使った講習があれば、そこから独自のものも作れる
- ・テキストだけでは理解しにくいところがあり初めに実務実習の項目にそって具体的に例で示してからワークショップを始めた方が良いと思います。
- ・どう取り組めばよいか躊躇した部分もありましたが、人を育成するには必要な手法だと思いました。
- ・とても良くできているように感じます。あとになって、応用が利くように仕上がっている。
- ・はじめての経験で難しかった。
- ・プランニングの方法、進め方は学べたが、事前の勉強をもう少し具体的にしてああ からワークショップを行うべきと感じた。
- ・もう少し、薬学的につっこんだ内容でもいいのか？
- ・もう少し時間が欲しかった。出来れば日にちをあけて再度内容の討議の場があるといいと感じました。
- ・もう少し実務実習に活用できるよう具体的な学習があるとよいと思う
- ・もっと具体的なカリキュラムがあればわかりやすいと思います。
- ・もっと具体的に実習に沿ったワークショップを期待します。早期学習についてのユニットでしたがワークショップで話し合う内容ではないと感じました。
- ・もっと実際の実務実習に利用できるような具体的な内容を希望
- ・もっと有意義なものにして欲しい、時間が足りなさ過ぎて中途半端なものになってしまう。そもそも、2日でスケジュールを組む事に問題があるのではないかと？本気で取り組むのであればもっと時間をかけて教育者を育てなければいけないのではないかと。
- ・ユニットがあまりにも抽象的すぎて理解できない。医療倫理って何？セルフメディケーションって何を指すのか？もっと具立的に即日実行可能はユニットを検討すべき。
- ・ユニットによっては薬局の人間、病院の人間ばかりが参加してしまう。平等に参加できる良い案がないものか。
- ・よい経験、体験になったが、実務実習に活用することはできなかった。
- ・ワークショップは2日間では無理。もっと時間をかけるべき
- ・ワークショップは大して役立たないかと。
- ・ワークショップは内容は役に立たなかった。しかし、今から、実習生を受け入れるんだという心構えが出来た。
- ・ワークショップ経験者を対象にして今後にかけるコースを設定してワークショップを開催してもらいたい。
- ・医薬品の取り扱い管理と安全性については別項目で実習する必要性があるかと？
- ・一施設完結型は病院でも薬局でも難しいと思われるので、協力施設確保の方法
- ・何か違う気がする WSの内容が理想を追い求めている気がする
- ・解説の 時間が あったら良かった
- ・開催回数が少ない
- ・学生が行ったオスキーを体験してみたい。
- ・既に実務実習が実施されているので、その中で実践されているものを取り入れては?と思います。
- ・技能を上げるためのプランニングがあればよいと思います
- ・教育の成功事例の共有化
- ・型にはめすぎ。応用の効かない薬剤師が多過ぎ。世間知らずが教えてもまともな薬剤師は出てこない。
- ・経験を積まないと難しい。
- ・継続的なワークショップが必要なのでは？学生受入までに時間があき、せっかく学んだことも忘れてしまうことも多かった
- ・現実とのつながりが実感できなかった。
- ・現場では学習方略の作成が中心となりますので、適切な学習方略の作成について十分に理解を深められるとよいです。
- ・現場の人間(開局)の教育側への採用
- ・行政等、保険薬局・病院薬局の仕事についてのカリキュラムもほしい
- ・行政等、保険薬局・病院薬局の仕事についてのカリキュラムもほしい
- ・行政等、保険薬局・病院薬局の仕事についてのカリキュラムもほしい
- ・項目が多すぎて消化不良でした。と同時に密度の濃い 2 日間でした。
- ・今現在のワークショップと5年前に受けたワークショップでは、今の方が数段現実的で、わかりやすくなっている
- ・再度、ワークショップをうけてみたい。
- ・災害が起こったときに薬剤師として我々はどんなことができるかについて
- ・在宅の見学ができるように薬剤師会で斡旋してほしい。

- ・ 残念ながら、もうほとんど覚えていません。
- ・ 司会進行役がみんなの意見を聞こうとしない態度であったので、困った
- ・ 指導内容を理論的に構築する技術を学ぶためには重要と思う
- ・ 私がいたグループは残念でした。1コマ連続でびっちりやるという現実にそぐわない考え方の押しつけはどうかと思う
- ・ 私が参加したワークショップは教育者ワークショップだったので、まだ、薬局実習は必要ないと考える大学の先生方との研修でした。現在はそんなことはないと思いますが、本来、いろいろな意見が出されるワークショップであるべき場で、タスクによる内容の誘導になってしまうと、新しい考えが出ない場にもなってしまう。たとえ、内容的に未熟でもいろいろな意見が交わされるワークショップであつたらいいと思います。
- ・ 私も100%理解できたか、と言えばそうではないと思いますが、あのカリキュラムがおおよそ一般的であるならば、理解不十分で終わった方もいらっしゃるようです。まあ、それでも良しとするならばカリキュラムのレベルは下げる必要はないとおもいますが、いえ、それでは悪しとするならば、もうすこしカリキュラムのレベルを落としてもかまわないかと存じます。具体的に言うと、学生の立場と定義しますが、我々は当にその時代は過ぎ、社会人であり薬剤師ですのでコースに、より実際あるであろうシーンを想定していただけると、目標、方略そして評価のやり方が理解できると思います。のちに実習に役立てればよろしいかと。まとめますとアカデミックな思考から遠く離れた我々にもう少し噛み砕いてご指導していただけると、とても安心です。
- ・ 事前にカリキュラムプランニングの流れの説明があるとわかりやすかったのではないかと思います
- ・ 時間がタイトなのでゆとりがほしい
- ・ 時間が足りな過ぎて、まとめるのが大変だった
- ・ 時間が長く、体力的にきつい
- ・ 時間的な余裕がもう少し欲しい
- ・ 自分の意見を考えたり、伝えたりが難しく本質的にうまく理解できにくい部分があった
- ・ 自分の立場に応じたユニットでのカリキュラムプランニングでなければ「実務実習」には役立たない。
- ・ “自分を含め、参加者の思う定義に差があり何(誰)を基準に考えるか難しかった。
- ・ そのためコアカリキュラムでの獲得目標としているものとは離れた流れのプランニング、獲得目標が出来上がってしまった。
- ・ 過程を経験できれば良いというのであれば目的は達成できたが、実際の現場で使うことはできない内容だったという反省点も残る”
- ・ 実際に業務を行いながら、ワークショップ同様に行うのは無理が多い。実際に適応しやすい方法でワークショップを行っていただくと、受け入れ1回目から対応しやすくなると思う。
- ・ 実際の業務を行いながらの実習の為、計画通りは難しい。
- ・ 実際の現場に即した問題点、対処法をワークショップで取り入れた方が、役立つと思います。
- ・ 実際の実習の中で WS で学んだような手順でプランを細かく立てるには至っていないが考え方を理解できたのが役立っていると思う
- ・ 実際の実務実習の内容とかけ離れていたのも、もっと具体的な実習内容等を教えて欲しかった。
- ・ 実施まで、期間があつたので、かなり忘れていた部分があつた。
- ・ 実習は個々の施設で臨機応変になされるため、その要綱も抽象的にならざるを得ないことは理解できるが、もう少し具体例を示していただけると実習のイメージが掴みやすいのではと感じた。
- ・ 実習は施設や施設の性格によりどうしても異なってしまうのが実情 画一的な実習を目指すためのプランニングを学ぶのは現実的ではないように思えた
- ・ 実習後、だいぶ時間がたっているの一回一回の実習で確認

してもらいたい

- ・ 実習指導薬剤師の資格を取得する手段が WS というのが理解できない。WS 終了が教育者として十分とは思えない。
- ・ 実践にそのまま使える内容にしてほしい。
- ・ 実践に活用できる内容を希望
- ・ 情報管理の重要性を広範囲へ
- ・ 前期、中期、後期と評価をした後、それをどのように生かしていくか、伸ばしていくか指標が欲しい。
- ・ 大きな意味で「人を育てる」ということを深く考えるきっかけになった。但し、具体的な方法論についての議論の場または情報を共有化する場も欲しいと思いました。
- ・ 大変役に立ちましたが、薬局に勤めるものとしては事前学習という設定は理解しにくいものでした。もう少し設定を考慮頂けると助かります。
- ・ 地域医療について具体的な方法
- ・ 調剤薬局で通常業務として行っている分野を中心に取り上げて欲しい。薬局におけるセルフメディケーションの重要性は理解しているが、実際には通常業務としては行えていない。
- ・ 難しい言葉が多く、なかなか実際には活用することができなかった。もう少し、身近なプランニングにできないか？
- ・ 函館での開催が1度しかなく、認定薬剤師を希望していても、仕事の都合で他都市でのワークショップに出ることができません。ご検討ください。
- ・ 非常に有意義でした。
- ・ 病院、薬局の担当者の話し合い、討論の時間がたっぷりあってよかった。薬局の仕事をしていると他の薬局のかたとのコミュニケーションをする時間がないのでとてもよいことだと思う。
- ・ 病院の薬剤師が知らないこと、薬局の薬剤師がわからないこともあるので、わかることで、作業したかった。
- ・ 病院実習と薬局実習の内容を相互に理想考察してもよいかもしれません
- ・ 病院薬剤師と保険薬局薬剤師を同じテーマで作業させないでください
- ・ 平成17年の参加者にとっては目から鱗のような感じがしました実習が現実のものとなっている現在は、参加者に正しい知識を持ってもらうことが大事かと思えます
- ・ 薬局と病院から一つずつ、討論してもいいかと思った
- ・ 薬局薬剤師が、病院実務実習のコースのワークショップでは知らない業務が多く意見を出しにくかったと思う。
- ・ 薬局薬剤師がワークショップで病院のかりを作製しても活用できない
- ・ 良くできている。
- ・ 倫理は倫理とはから始まるので短時間では難しい。

【記述 13】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(7)「医療人教育改革」の講演について
- ③ 講演の内容は、実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 「指導」、「教育」の意味⇒一方的に教え込むことではなく、自ら学ぼうとする意欲を育てることである。
- ・ 『教育とは、学ぶ人の知識・技能・態度に変化を与える事である。しかし、今までの教育には「態度」の部分が欠けていた。そのために必要なのは「参加型の実習」である。教育者からの一方通行ではなく、共に学び・共に変わる事が大切である』と仰っていた。
- ・ 『褒める』事により行動に変化が表れました→積極的になった。
- ・ 2年前の話を聞かれても、もう覚えていません
- ・ 3年前の講演でよくおぼえていない。
- ・ 4年制の教育で SGD や WS はなかったのも、自分自身のモチベーションが上がった。
- ・ 6年制で特に重点が置かれていることが、医療倫理、地域医療、多

- 職種連携であることを理解しながら実習を指導できたこと。
- ・ patient oriented医療を理解できた。
 - ・ いきなり解答を教えずに学生自身に解答を見つけてもらうのは良い考えだと思った。
 - ・ いくら豊富な知識があっても、技能・態度も伴わないと、これからの時代のニーズに答えられない
 - ・ この講演を聞いていない
 - ・ これからは態度が重要であり、いろいろな方面で行動していかなければいけないということ
 - ・ これから医療に携わっていく人を育てることに、自分も多少なりとも関わっているという意識が高まったような気がする。
 - ・ チーム医療に於いて薬剤師の以前の立ち位置と今後期待されている部分が理解できた。
 - ・ チーム医療の重要性
 - ・ チーム医療の重要性を知ることができた
 - ・ できない学習者を叱るのではなく、良いところを見つけ、教育者と一緒に成長していくという点。
 - ・ どういう内容だったか、今となれば忘れてしまっております。
 - ・ どんな薬剤師を育てようとしているのかイメージできた。
 - ・ なぜ実務実習が必要かを実習生に話すきっかけができた
 - ・ ビデオの画像、音声の質が悪く不快だったので印象的でなかった。
 - ・ フィードバックの技法
 - ・モチベーションアップになった
 - ・モチベーションアップになった。
 - ・モチベーションが上がった
 - ・モチベーションの違い
 - ・もっと薬剤師も医療人としての自覚を持つべきだということ
 - ・やはり自分自身を含め、薬剤師として教育改革の場は必要だと考え直す事ができた。
 - ・レンガつみのはなし、みえるぶぶんはそのかんきょうによってみえなくもなる。
 - ・ワークショップが普通過ぎて、詳細は覚えていないが、役だっているはず。
 - ・意識が変わった
 - ・医療とその目的の細分化の説明
 - ・医療の担い手としての哲学的、倫理的なものは絶えず念頭においておきたいので参考になった
 - ・医療はサービスであり、患者中心に行われるべきである、という基本姿勢を学生の中から植え付けていくことを、躊躇なく出来ていると思うので。
 - ・医療人としての意識を再確認できた。
 - ・医療人としての心構え
 - ・医療人としての理論武装のひとつ、または具体的事例として今後の薬剤師が活躍しやすいようなテーマ(検査値にもとずいた服薬指導、栄養指導)が実習指導にて役立った
 - ・医療人として行うべきことを改めて確認できた。
 - ・医療人として使命の再認識
 - ・医療人に必要な心のあり様を、改めて考える機会になった
 - ・医療人の概論を説明するのに役立った
 - ・医療人の使命
 - ・医療人の使命、知識、技能、態度の他、良き後輩を育てることとした講演内容「医療人教育改革」を心に刻み指導にあたった。
 - ・医療人の使命、知識・技能・態度・人生観・後輩を育てる、ということが判り良かった。
 - ・医療人の使命についてのお話が良かったです、cure, care, share, についても大変有意義でした。
 - ・医療人の使命の再発見；患者さんを治すだけでなく、希望を持ってもらう事・良き後輩を育てる事
 - ・医療人の使命や人生の目的、人間を造ることの大切さを知り実務実習を引き受けることに勇気づけられた。
 - ・医療人の倫理観という点で、学生に話をするうえで、資料にさせていただいています。
 - ・医療陣としての志を持ち次の世代を育てようとのモチベーションが高くなった。
 - ・我々のモチベーションが格段に高まった。
 - ・学に教えずに時間を与えること、
 - ・学ぶ方法を学ぶ
 - ・学んだことのたったひとつの証は変わることである
 - ・学習における視点
 - ・学習者が中心の教育をすることの重要性、知識のシャワーから問題解決型へ変換する事。
 - ・学生との接し方の意識の変化
 - ・学生に具体的な話ができた
 - ・学生に対して心を広く持つて対峙できました。
 - ・学生のモチベーションの上げ方等、論理的に理解でき活用できました。
 - ・学生の能力を引き出す。
 - ・学生は認められたと思うと更なる向上心をもって実習に取り組む姿勢が見られました。
 - ・学生を指導することが、医療人(薬剤師)教育改革の一端を担うことだと思えることができた
 - ・学生を指導するにあたって、「PNPで指導する」ということがとても印象的でした。
 - ・患者が中心の接客。個人情報の秘密義務。
 - ・患者さんを中心にした医療チームの連携の必要性、重要性の理解に役立った
 - ・患者の目線に立って物事を見ることが出来た
 - ・患者を思う心が大切であることを態度でしめそう
 - ・患者を臨床における顧客都捉え、そのニーズにあった薬剤師を育てることが必要。…
 - ・患者中心の医療という観点を常に念頭において指導しています。
 - ・患者中心の医療の理解と参加が必要である
 - ・患者様や顧客に対する接し方や想いを確認する事が出来ました
 - ・技術、知識だけではなく心のふれあいは本当に大事だと思う。看護学生の話にとても感銘を受けた。
 - ・共に学び、自分も変わる必要がある事を学んだ
 - ・共に成長する
 - ・共育
 - ・共育。ほめること。
 - ・共育という言葉が理解できた。
 - ・共育という言葉に共感できた。
 - ・教えるのではなく、共に学ぶという、そのスタンスは重要だと思う
 - ・教えるのではなく、共に学ぶという考えで実習を行え、少し楽な気持ちで実習に臨めた
 - ・教える側の意識をかえること
 - ・教育するにあたっての心構え、考え方などわかった。
 - ・教育する側の適正や能力など、自身に対しても厳しくなければいけないと実感した。
 - ・教育というもののあり方について確認できた
 - ・教育とは、学習者の行動が変わること、指導者も共に成長できるということに気づいたこと
 - ・教育とは、教え引き出し育てること
 - ・教育とは学習者に役立つ変化を起こすという考え方
 - ・教育とは共に育つこと
 - ・教育とは共に育つこと。学習者の人間性に焦点をあてず行為に焦点を当てる。
 - ・教育とは共に学び、共に変わる事である
 - ・教育とは共に学び共に育つ
 - ・教育に対する意識の変化(共育)。
 - ・教育は学習者中心で考えなくてはならないと学んだこと
 - ・教育をしていくことの大切さが分かりました。
 - ・教育改革で目指している薬剤師の姿が少したがイメージできた
 - ・教授錯覚に対して意識するようになる
 - ・形成的評価の重要性が理解でき、取り入れることができた
 - ・現在の問題点等を認識できたこと

- ・後進を育てることの重要性、ひいては医療という分野を通して国民を守ることを痛感しました。
- ・後輩を育てる重要性を意識した。
- ・後輩を育成する意識の向上
- ・考え方が多少変わった
- ・講演の内容を思い起こし、学生に講演内容を話すべきだと思った。
- ・講演内容が記憶にないので、記載できません
- ・今となっては時間経過で内容思い出せません、
- ・今の状態に漫然と慣れることなく、向上心を持つ必要性
- ・今まで以上に薬剤師としての専門性とコミュニケーション能力が求められているという事。
- ・参加型。考えさせるとのこと。
- ・参加型。考えさせるとのこと。
- ・参加型薬学教育(特に実務実習において)を充実させ、魅力的な薬剤師を育てあげる必要性
- ・指導するモチベーションの大きな支えになった。
- ・指導における心構えができた。
- ・指導薬剤師としてのモチベーションが上がった。
- ・指導薬剤師の心構え
- ・指導薬剤師も医薬品情報の再確認や新薬について改めて勉強する機会が増加した
- ・指導薬剤師以外の薬剤師にも実習生指導に関わってもらえるような工夫ができた
- ・自己啓発になった
- ・自信の意識という面で、影響を受けた
- ・自分が受けた教育は薬学化学が主で、臨床はごく一部又は選択にすぎなかったので現教育を受けている学生さんを受け入れるに当たっての意識を高めることができた。
- ・自分が受けてきた教育方針との違いが明確になった。
- ・自分たちが教育を受けた時と、考え方が変化していることがわかった。
- ・自分たちが受けてきた教育と異なることを行わなければならないので、やり方を教わる必要性を再認識した。
- ・自分の理解が一般職員への啓蒙に役立ったと思う
- ・自分を見直す機会になった。
- ・自分を見直す機会になった。
- ・自分自身のモチベーションをあげることができた
- ・自分自身の意識改革、向上になった
- ・自分自身医療人として、プロフェッショナルとして国民や社会のニーズをより強く意識し行動するようにした。
- ・実習に取り組む意識は変わった。
- ・実習に対する基本姿勢ができた。
- ・実習の上でどのように進めていくかの参考になった。
- ・実習をどういったものをものにすべきか、という基本的な考え方が分かった。
- ・実習を行う上で自分の意識が前向きになった
- ・実習行為の適法性について「実施できない学生には資格を与えない」方針を知り、実施させることに自信がもてた。
- ・実習指導における評価、教育者としての意識を高めることができた。
- ・実習時に教授錯覚にならないよう再認識した。
- ・実習初日に薬剤師の立ち居地、スタンスなどの理念を伝えていくうえで貴重な指標となった
- ・実習生と接するにあたって考えがぶれずに指導できた。
- ・実習生に医療人の心構えについて説明する際に役に立った
- ・実習生受入れ指導の際 常にワークショップで学んだ事が脳裏によぎり学生と共に学びました。
- ・実務実習というより、自分自身の勉強になった
- ・実務実習とのコミュニケーションを取る上で、“態度”の重要性を再認識した
- ・実務実習において緩急をつけ、重要項目について重点的に実習を実施。
- ・実務実習に対するモチベーションが上がった。
- ・実務実習の重要性の確認
- ・若い次世代の薬剤師を育てる重要性について、又4年卒業薬剤師としてこれから変わりゆく医療について認識を新たにしたい
- ・受講者は教えられたことをそのまま理解するわけではないので繰り返し教えることで理解度が変わる
- ・受身に学ぶ事から教える事で学ぶことを教わった
- ・初心(学生に近い)を再確認できた
- ・真の教育者としての学習者を動機付けること。
- ・人の行動を変えたいときは褒めるほうがより効果的であるということが役に立った。
- ・人の話を聞くときは目で受け入れる。目で受け入れると気持ちが高くなる。
- ・窓口業務での患者対応に役立った
- ・他の人の人生に意味のある貢献をする(人生の目的)、評価は人を作る、ということが、指導薬剤師としての自分に自信が持てるようになった。
- ・他人ごとではなく自分も後輩を育てなくていけない立場にあること
- ・多くの方々の努力を目の当たりにして自分の意識改革になりました。
- ・体験させる事での学生の変化を実際に感じた
- ・大きな目標が学習意欲につながり評価が人を作るということを念頭におき実習を行った。
- ・知識、技能を教えるものではなく態度を教えることが大切であるということ。
- ・知識・技能・態度の3要件についての講演は自らも含め実習生への薬剤師として向上への足がかりとなった。
- ・知識はシャワーのように与えるだけではなく、共に考え、共に学ぶことをモットーに取り組んでいる。
- ・知識や技能だけでなく患者や他のスタッフに対する態度を重要視
- ・地域医療への貢献は、医療人としての使命・役割を十分に果たすべきであり、教育機能の一層の強化を図る必要がある。
- ・中島先生の講演の中で“共育”という考え方。
- ・特に態度のところが参考になり役にたった。
- ・反復して学習内容の理解度を確認することが重要であること
- ・評価のしかた
- ・病院薬剤師・開局薬剤師の区別ではなく薬剤師としての意識・知識向上が必要であると感じた。
- ・忙しい業務の中で学生を指導することの意義を持てた。
- ・望ましい医療とは何か、ということが理解できた
- ・未来の薬剤師、医療人の一つのビジョンが示された
- ・未来の薬剤師像が見え、育てる上での現場のサポートや自己研鑽と心構えが再確認できた。
- ・明確な目的意識を持って学生指導に取り組んでいる大学があることがわかり、実習に対するモチベーションが上がった
- ・目標のとらえ方。「毎日の同じ繰り返しのなかで、到達目標はどこにあるのか。」といった認識。
- ・薬学が6年制になり、薬剤師の役割が変化する可能性について
- ・薬学が6年生となった意義が理解できることにより、教える側の姿勢も変わった。
- ・薬局での業務を習得する前に、医療人としての考えをしっかりと持ち行動をする事を説明できた事。
- ・薬局での実務実習に求められているものについて知ることができた。
- ・薬剤師がターミナルケアなど、患者様の最期の時までにかかわれるように努力すること。
- ・薬剤師が医療人として、国民の健康に尽くす為に必要とされている事を理解できた。
- ・薬剤師としてだけではなく教育者としての意識も必要。
- ・薬剤師としての意識改革ができた
- ・薬剤師としての自分を、これまで教育者として意識したことが無かったので、新しい自分に出会えたような気がした。
- ・薬剤師には学術知識ばかりが先行し、思いやりという基本的な

部分が欠如している人が多いと思う。

- ・ 薬剤師のモチベーションを保つうえで役立つ。
- ・ 薬剤師の社会的役割と責任でカンター実践に於いて健康相談を
実践
- ・ 薬剤師の存在意義を問われていると感じているので教育改革し
実のある人材をどんどん育成すべき。
- ・ 薬剤師の未来へ向けて、後輩を育てるのは必要
- ・ 薬剤師の未来像を垣間見ることができた。
- ・ 薬剤師の立場、仕事について
- ・ 薬剤師は医療人という自覚が足りないと思う。薬というものでは
なく人を見るべき。現在の教育では足りないものを教ええ頂い
た。
- ・ 薬剤師以外の視点での考え方が理解できた
- ・ 良い後輩を育てるために、共に学び共に変わる事。薬剤師として
医療人としての志を持つ事の重要性。
- ・ 臨床での患者様への接し方の参考になった

【記述 14】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(7)「医療人教育改革」の講演について

④ 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。
活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ ”挨拶”
- ・ 「学んだことの唯一の証は変わることである」という名言を聞き、
学生にうまく説明を行なった
- ・ 「教育とは学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスで
ある」このことを頭に常にに入れて実習に取り組むことができた。
- ・ 5年前のワークショップには、この講演がなかったと思うのです
か？
- ・ 6年制で特に重点が置かれていることが、医療倫理、地域医療、
多職種連携であることを理解しながら実習を指導できたこと。
- ・ 6年制薬剤師の目指すところを学生に話すことができた
- ・ 6年前と現在とでは内容が大きく違っているので活用できない
と思います。
- ・ P-N-Pで指導しほめて育てるように心がけている。医療陣とし
ての思い医療倫理を根底に指導している。
- ・ P-N-Pで指導する。
- ・ P-N-Pで評価を行うことを心がけるようにした
- ・ positive-negative-positive
- ・ PSP は非常に役立っている。実務実習を進めるうえでの目標・
方略を立てたうえで、各々についての評価も行っていく。フィー
ドバックをしっかり行いながら進めていくこと。
- ・ SBOを教える際にGIOを見据えて教えることに努めた(煉瓦職
人の話)
- ・ あなたが変われば患者が良くなる
- ・ ある程度時間が経過してから過去の実習内容を口頭試問した
オリエンテーションとして活用させていただいた
- ・ カウンター実習や地域医療、医療連携など机上では学べない
事をできるだけ多く実習できるよう計画した。
- ・ クラーク博士の言葉を実習の最後に学生に渡している
- ・ ゴール設定を”座学と学校でみれない現場を見せる”というわ
かり易いゴール設定ができた
- ・ コミュニケーションが大切であること
- ・ これからの薬局薬剤師のあるべき姿について、また何が必要
か話し合うことができた。
- ・ これからの薬剤師について語る事ができた。
- ・ これからの薬剤師の役割を話す。
- ・ スモールグループディスカッション、参加型教育
- ・ その他の薬剤師に指導した
- ・ ただ業務をこなすだけでなく命に係わる職業であり人との関わり
を大事にすることを伝えた

- ・ チーム医療
- ・ どうしても上から教える格好になってしまう
- ・ どんな薬剤師をめざすべきなのかを学生と話し合った。
- ・ フィードバックの技法
- ・ ベトナムの話で教育がいかに必要かを知った
- ・ ポジティブ→ネガティブ→ポジティブの指導法
- ・ ほめる、しかる、ほめるという方法を実際に取り入れて指導し
ています。
- ・ よき後輩を育てる
- ・ ワークショップを通じて、現場での実習生への教え方を意識的
に変えることができた。
- ・ 医療の担い手の理想的な薬剤師像について話した
- ・ 医療人としての心構え。
- ・ 医療人としての態度の重要性
- ・ 医療人としての薬剤師が期待され、必要とされていることを説
明した。
- ・ 医療人としての薬剤師はどうあるべきか？
- ・ 医療人として高い意識を持って仕事に当たるよう繰り返し話し
したこと
- ・ 一つの可能性としての話として
- ・ 何が変わったか話し合った
- ・ 何を教えたかではなく何ができるようになったかということをも
重要視できた
- ・ 改善すべき点やアドバイスを形成的評価(フィードバック)を意
識して行えました
- ・ 学習カリキュラムを学生中心の問題解決型とすること。
- ・ 学習者との信頼関係を大切にすること。
- ・ 学習中にフィードバックを行う。
- ・ 学生が医療の多職種連携に興味を持つようになった。
- ・ 学生が行った事のフィードバックに PNP 話法を使った
- ・ 学生とのコミュニケーションの1つとして
- ・ 学生に、考えさせ、そのうえで講義をした。
- ・ 学生にスペシャリストとしての自覚をプロフェッショナルとの比
較を用いて説明した
- ・ 学生にも医療人としての心得を学んでもらう意味で意識した。
- ・ 学生に接するときの姿勢、立ち位置
- ・ 学生に薬剤師としての意識付ができた
- ・ 学生の意見を業務に取り入れた。
- ・ 学生の自主性を尊重し、指導者は見守りを重視。
- ・ 学生の評価
- ・ 学生の理解度を評価するのに役立った
- ・ 学生への技術の伝授、患者を相手にしている後姿をみせると
いう態度の伝授
- ・ 学生自身に色々考えてもらうような形で実習を進めた。学生さ
んからも「授業の内容と実体験が重なって、理解が深まった。」
との感想をいただいた。
- ・ 患者さんと接する機会を増やすことで、患者の立場で考えるよ
う指導できた。
- ・ 患者さんの為の医療人であること。その為に学び必要に応じて
提供できるようにしておく事を実習生に伝えた。
- ・ 患者に寄り添い、ともに未来を見据えて歩んでいける心の持ち
方を、理解してもらえように行った
- ・ 患者への横柄な態度について。薬剤師の倫理。
- ・ 期間が開きすぎて、その記憶が失せていたので活用できな
かった
- ・ 期待したことができなくてもできる方向性を考えたり、できるま
で待ったりすることができた。
- ・ 共に育つ「共育」を心がけました。
- ・ 共に学び共に変わる、ということ
- ・ 共育と言う点。教える難しさも学び、薬局現場を大学教員の先
生方にも知ってもらうチャンスもできました。
- ・ 教えるから学ばせるへ指導方針を変更し、実習生が学習しや
すい環境を提供できるよう努めた。

- ・教育→共育(共に学び、共に変わる)
 - ・教育とは変わること意識しながら行った。
 - ・教授錯覚にとらわれることなく、学生の理解度に合わせて何度も指導法の見直しを行った
 - ・具体的な事柄ではないが、医療人としての持つべき姿勢を学びとることができ、その態度で実習に望むことができた
 - ・形成的評価の実践。
 - ・現在の大学での講義スタイルが後のチーム医療をスムーズにしていく
 - ・現場でしか習得できないことを実習のなかで意識して指導を行った。
 - ・現場の薬剤師が参加型教育と後継者育成の重要性を理解できた
 - ・講演の内容に関しては、受講から実際の受入に間があり、記憶に残っていないかった
 - ・講演内容を学生にも伝え、学生のモチベーションを刺激した。
 - ・講演内容理解した覚えはありますが、どの内容の事を言っているのか不明 座学ア～オの中の事でしょうか？
 - ・講師の先生の熱い思い(薬学6年生教育が日本人の命の質をかえる)を学生達に伝えた。
 - ・国民から信頼され必要とされる薬剤師になろう！と常に語りかけている。
 - ・今までとは違う教育を受けて実習にきた学生であることを意識して接した
 - ・今現在もPNPで指導しています。
 - ・今後、医療人としての基本になるべきことを話していこうと思う。
 - ・在宅についてもっと推進する必要性を説明し、そのために努力していることなどを学んでもらった
 - ・在宅医療でのバイタルチェック 等
 - ・作業に対する意識をかえること
 - ・参加型実習を第一に考え、実習生が出来ない麻薬の投薬などだけをしっかりと理解して、それ以外のことは積極的にやってもらいました。
 - ・指摘するだけではなく、達成できた時や成長が見られた時は褒めて評価したことで意欲増進につながりました。
 - ・指摘は多すぎず少なすぎず、行為に焦点をあてて人格、人間性に焦点をあてない様に学生に接する様に心がけた。
 - ・指導する立場ではなく、学生と一緒に考えて考えながら実習(業務)をすすめる。
 - ・指導を行うモチベーションに変化がありました。
 - ・指導者が分からない点を積極的に調べさせて、一緒に考え学習した
 - ・事前に講義の内容を参考にした資料を作成し、薬局スタッフに向けて同様の内容の講義と進め方の指導を行った。
 - ・自分なりにteachingとlearningをバランス良く実習させることができた。学習していなければ自分流になっていたでしょう。
 - ・自分の中で知らない知識を学生が府薬の研修で学んで帰ってきて報告を聞くことで、自分の知識が増えた。例えば、学校薬剤師や休日診療所の実態等
 - ・実習の手続面に翻弄され、講義のような高度な目的・意義は達成できていない。
 - ・実習を始める前に、薬局内のスタッフに向け講演の内容を伝えた。以前より、学生に対して、将来の同僚を育てるような気持ちで接することができるようになったと感じる。
 - ・実習指導にあたり、見せる→やらせるの流れを意識して行うことができた。
 - ・実習受入前に店舗内で、受入についての意識を話し合った。
 - ・実習生が患者様一人一人の気持ちを受け止められるような実習にするためにどのような対応をすれば良かったか服薬指導後に学生さんと話し合った。
 - ・実習生に医療人の心構えについて説明する際に役に立った
 - ・実習生の気持ち向上心を優先に、しかしながら業務の上では
- 患者が常に優先されるという点をいつも意識した。
 - ・実務実習がどうしても必要かの説明を学生にすることができた。学生にもこの講演内容を話し、次に引き継いで欲しいと話し合うきっかけとなった。
 - ・実務実習が指導者側からの一方的なものにならないよう、共に学ぶ姿勢を持って取り組みました。
 - ・実務実習において、意識教育というか態度教育を重点に行うようにした。
 - ・実務実習の必要性、今後の薬剤師像を話すことが出来た。
 - ・上記
 - ・上記を念頭に置いて指導に当たった。
 - ・情報収集のために必要な手段は、相手の立場を考えた思いやりとコミュニケーション能力が必要不可欠である。
 - ・正確な投薬のうえで、医療における多方面な知識(検査値、栄養摂取方法など)がいかに大切かという学生に説明時使用
 - ・生徒に話をした
 - ・折に触れ、6年制の薬学生がこれからの医療システムを変革していく力であると話した
 - ・相手に奉仕する精神を持ってという部分
 - ・地域社会と薬剤師の関わりを説明するのに活用
 - ・中島先生の言葉をそのまま伝えた。
 - ・町田市薬剤師会で教えるにいいLSの集合研修を実施しているが、レクチャーの間に学生同志のSGDをやらせると活き活きする。
 - ・漠然と感じていることを明確にしてもらった、という感じでしたので、おそらく無意識下で実行(活用)できていると思います
 - ・評価の際の参考にした。
 - ・評価を何回かに分けて再評価した
 - ・服薬指導だけでなく患者さんと接する場面を見せたり、実際に接する機会をもうけて話をさせた。
 - ・服薬指導の実践では良い点を褒めることにより服薬指導を自らの意思で志願する様になった。
 - ・服薬指導を徹底的に行うことによって患者の要求が見えてくる。
 - ・服薬指導時に日常の食生活相談まで入れる
 - ・望ましい医療に近づくためには、患者さんの思いを実現できる薬剤師になって欲しいと伝えた。
 - ・麻薬、向精神薬で犯罪者を作らないような環境をととのえること
 - ・毎日の学習で到達目標をきちんと示す事で何を学ばなければならないかを理解し参加型、問題解決型の学習を意識しました。フィードバックを要所、要所に入れることでステップアップできたと思います。
 - ・目の前の学生を成長させようと努力した。
 - ・目標を示し、それを達成できるように指導した。
 - ・薬学(薬の研究開発から現場)
 - ・薬学生、他の薬剤師に話をしました。
 - ・薬剤師としての患者さんへの接し方
 - ・薬剤師についてあらためて考えることができた
 - ・薬剤師の位置付け、取り巻く環境について、実務実習で学生と話し合った。
 - ・薬剤師の現状、未来について、語る事ができた。
 - ・薬剤師業務の目的は患者様の「想い」の実現であることを実習中繰り返し言い聞かせた
 - ・薬剤師綱領をはじめ一緒に確認した。
 - ・薬剤師倫理規定、薬剤師綱領等の章読
 - ・立場を分けて考えるのではなく、医療人として薬剤師に出来ることを考えるよう、指導してきた。
 - ・良い点を誉めることでやる気をおこさせる。
 - ・良く覚えていませんが、「あなたの思いを実現する為にお手伝いさせていただきます」ですか？

【記述 15】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(8)「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成に向けての講演
について

④ 講演の内容は、実務実習を行う上で役に立ちましたか。
役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 1 万人という人数が研究職の人も入れての事だと理解しました。それってどうなの？また年配の方も多かったと聞きます。初期に参加された年配の方は本当に指導薬剤師として学生に携わっているのかと疑問を持てる考えを養う能力ができました。
- ・ 2年も前のことを聞かれても、もう覚えていません
- ・ おまかな実習の趣旨がわかりました。
- ・ ガンセンターの最先端の話だったので知識として大変参考になった
- ・ がんばらなくちゃと思った事だけ覚えています。
- ・ ここまでに至る歴史的な面も含めて自分のモチベーション高めるのに役立った
- ・ この講演を聞いていない
- ・ これからの薬学教育にわずかでも協力できるという自覚と喜びが生まれた。
- ・ すみません、講演の内容は忘れました。
- ・ どのように実習するか不安があった。
- ・ どの職種に対してもいえることですが、後輩を教育、育成することは重要です。と言うことの再認識
- ・ とともにそだつ
- ・ まずやらせてみて、何が出来なくて(わからなくて)困るかを考えさせて、SBOs の意義を理解させながら実習を進めています。
- ・ やる気になった。
- ・ ワークショップが昔過ぎて、詳細は覚えていないが、役だっているはず。
- ・ ワークショップに参加したのがかなり前のため、何が役に立ったか具体的にはわからない。
- ・ 医療関係者として社会にできるまへの学生教育を知ることができた
- ・ 一方通行の講義でなく、一緒にやってみることの重要性を感じた。
- ・ 我々の研修について学生にアピールする。
- ・ 学んだことの証は変わることである
- ・ 学生に指導する責任の重さを感じながら、自身の成長の必要性も感じることができました。
- ・ 学生に接する心構えを確認できた。
- ・ 既に実施している
- ・ 期待を持ち、また使命感を持って実習にあたったこと
- ・ 共用試験でどのような事が行われているのか。
- ・ 見学型実習→参加型実習へ
- ・ 見学実習から実務へ
- ・ 現状がわかった。
- ・ 現状の把握
- ・ 現状を知ることができた
- ・ 後進の育成が重要なことであり、共に育つ意識を持って実務実習に臨むことの理解ができた
- ・ 行為の相当性を提供するため、学生がやる事前学習・OSCE、CBT をクリアしているので、実務で麻薬以外は何でも実習できた。
- ・ 行動する事を優先する
- ・ 講演を知りませんでした
- ・ 講義型より参加型の方が身に付きやすい
- ・ 国民の要求に応える医療人・薬剤師育成のために指導薬剤師として実務実習の重要性
- ・ 今後の教育改革において参加型実習の重要性を認識できた。
- ・ 参加型の教育の必要性和現場の不安の解消
- ・ 参加型の実習によって得られるメリットがよく理解でき、実習の

際に極力体験できることはさせてあげようと言う気持ちになった。

- ・ 参加型の実務実習を心掛けた。
- ・ 参加型学習の基本、やって見せて、やらせてみて、ほめて育てるということを中心掛けて指導できた。
- ・ 参加型実習がなぜ必要か理解できた。
- ・ 参加型実習の重要性を認識した。
- ・ 参加型実習の重要性を認識し実習開始にむけてのモチベーションを高めた
- ・ 参加型実習を念頭に置く。
- ・ 参加型実務実習の重要性の認識
- ・ 参加型実務実習は苦手な項目を何度もやらせることにより、得意分野に変えることができる。
- ・ 志として実習生に伝える事が出来た。
- ・ 指導者としての意識が変わった
- ・ 指導者側の意識改革も必要
- ・ 指導薬剤師としての意識を高めることができた。
- ・ 実際の現状が分かりやすく話されていた。
- ・ 実習の成果が地域・実習先によって異なってはいけない
- ・ 実習生を指導する重要性について理解でき、指導が大変な時も乗り越えることができる
- ・ 実習目的の確認
- ・ 実務実習において、現場の指導薬剤師に何が期待されているのかを実感することができた
- ・ 実務実習を行うにあたっての道筋が見えてきたと思った。
- ・ 受身でないで、本人のやる気や意識などがよくわかる。またその変化も実感できる。
- ・ 受動的手法より能動的手法が記憶に残りやすい
- ・ 周囲の薬剤師がどちらかと言えば、学生実習を受け入れることに消極的だったため、そちらの意識を変えるために講演の内容を参考にさせて頂きました。
- ・ 説明→見学→ロールプレイング 自己評価
- ・ 即戦力となる薬剤師育成のための実習実行やそのための市児童薬剤師教育がまず重要であるということ。
- ・ 大学においては事前学習と共用試験(CBT・OSCE)が取り入れられ、学生は実務実習を受ける資質を十分に有する事が分かりました。
- ・ 東洋医学会に共に参加して、自主的に報告書を提出してくれた。
- ・ 東洋医学会に共に参加して、自主的に報告書を提出してくれた。
- ・ 熱意が伝わった。
- ・ 能力がなくても、時間がなくても、薬学生の指導をしなければならないと思った
- ・ 方向性、モチベーションが上がった。
- ・ 目標に到達する方法の考え方は役に立った
- ・ 薬学教育改革の現状が認識できた上で実務実習にのぞめた事
- ・ 薬学生の実習に向けての備えが分かったので教える時に参考になった。
- ・ 薬学部6年制の現状、実務現場で直接実習の指導に当たる薬剤師の確保が最も重要な課題のひとつであること。
- ・ 薬剤師が業種をこえて参加型の実習を行うことに意義はあると思います。
- ・ 薬剤師の限界を知って、その上で何が出来るかを理解
- ・ 薬剤師の資質・地位向上のために多くの方々が奮闘されたのだと理解できた。
- ・ 薬剤師の将来像を具体的に提言できた
- ・ 薬剤師教育の変化が、私達薬剤師にも変化をもたらすであろうと知ったこと。

【記述 16】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(8)「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成に向けての講演
について

⑤ 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。
活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 5年前のワークショップには、この講演はなかったと思うのですか？
- ・ あるSBOについていろいろなLSで見方を変えて行えた
- ・ カウンターに学生を立たせること
- ・ これからの薬剤師について
- ・ できるだけ学生に参加・体験させるように指導した
- ・ どのように実習すればよいかわかった
- ・ ほめて育てる。
- ・ やってみせて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ。
- ・ やってみせて〈目標〉、やらせてみて〈方略〉、ほめてみる〈評価〉
- ・ 下の代に教えていく大切さ
- ・ 学生が患者様となるべく多く接することができるように配慮をしています。
- ・ 学生になんでもさせる
- ・ 学生にはできるだけ実践を体験してもらいました。
- ・ 学生に対峙したとき、自分も実習を有意義なものにするために、この大きな変化の中で必死でやってきたと、胸を張れる気持ちで居られた。
- ・ 患者さんとの対話を多く経験させたが患者の反応は学生に強く印象づけられた。また励ましの言葉を受けて学習意欲が高まった。
- ・ 患者第一主義として患者さんの為の薬局・薬剤師であるべきと実習生に何度も伝えた。
- ・ 癌治療の最先端の話が少してきた
- ・ 共に育つ気持ちで、受け入れています。
- ・ 共育(きょういく) ;ともにぞだつ
- ・ 今までに関係の薄い職種間のコミュニケーション深める場となった
- ・ 参加型でない、実習生も疲れてしまう
- ・ 参加型の実習を目指した
- ・ 参加型の実務実習を行わせる具体的な理由を教えることが出来た
- ・ 参加型の実務実習を行わせる具体的な理由を教えることが出来た
- ・ 参加型を意識したことで、学生と一緒に成長することができた。
- ・ 参加型実習
- ・ 指導者側の姿勢
- ・ 指導薬剤師として6年間をみっちり過ごす薬学生を世に送り出す責務を日々実感して業務を行った点。
- ・ 指導薬剤師としての立場及び姿勢をあらためることができた。
- ・ 指導薬剤師と学生から、薬剤師全体が学生とともに変化し今より必要とされる医療の担い手になるための像を学生と話し合えた。
- ・ 指導薬剤師側も、コアカリキュラムや事前学習・共用試験の内容をきちんと把握・理解する必要があると感じました。
- ・ 自習生に説明を行う際役に立った
- ・ 実習の具体的な内容を計画するにあたり、期待通りの成果を出すべくプログラムを組んだ
- ・ 実習生が目標に未達であっても別の方法を考える余裕ができた
- ・ 実習生に対しての具体的な活用場面はなかったが現状説明などの資料になった
- ・ 実務実習に於いて、店舗全員の理解・協力を得られた。
- ・ 実務実習を体験する意義について話す
- ・ 取り組む姿勢が学べた。

- ・ 周りの薬剤師のモチベーションを上げることができた。
- ・ 出来るだけ早めに体験させ何が足りないのか本人に考えてもらおう。
- ・ 少し活用できているのではないかと思う。
- ・ 新しい話題について一緒に勉強している
- ・ 申し訳ないですが、古い話なので忘れまして
- ・ 正直3年以上前のことなのでこの事を聞かれているかわかりません。
- ・ 目標・方略・評価を意識し、カリキュラムを作成した。
- ・ 薬学が六年制になったながれや実務実習にいたる経過を学生に話をした
- ・ 薬学生の行為の的確性を見極めること。
- ・ 薬局の役割、調剤技術や知識、患者さんとのコミュニケーション等が理解できる様に指導した。
- ・ 薬剤師の将来像をしっかり示してもらいたい
- ・ 薬剤師の倫理を説明した時
- ・ 薬剤師は医療現場でどうすべきかを討議した(自己を超える様な内容を盛り込む・誇りを持つなど)

【記述 17】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(9) 今後実施して欲しい講演の内容があれば、お書きください。

- ・ 6年制の実務実習に対する中央の考え方と現状について
- ・ 6年生が実際に出てきて新たな問題点があれば講演してほしい
- ・ 6年生の薬剤師が現場に出た後、その評価を他職種から伺いたいです
- ・ いまどきの学生生活(実習、授業内容、新旧状況、性格など)
- ・ かなり以前なので覚えていない
- ・ コミュニケーションの技術
- ・ これからも、大学の考えかた、薬剤師会の考え方を個人の薬局の薬剤師に広く伝えてほしい。実習生のひとに考えかたをふまえて教えていきたい。
- ・ これまでの実習のデータ。参考にできるような例等を示して欲しい。
- ・ メンタル的な内容
- ・ モチベーション向上・態度低下防止策 学生の負の部分に関する内容
- ・ もっとマニュアル化された教育法
- ・ もっと具体的にどの程度まで講習すればいいかといった内容的なもの
- ・ ロールプレイングでよいので学生役と指導者役を体験してみたいのでは
- ・ 医療スタッフの連携の大切さ、異職種同士が手をつなぐこと。
- ・ 医療と介護、両方の内容が必要です。
- ・ 医療人のモラルについて
- ・ 何を持って指導するか、創造的な内容で示唆していただきたい
- ・ 家庭にてしつけをされていない学生に対する教育
- ・ 学生の気持ちを理解するためのの方法論や理解力のばらつきがある場合の教育の仕方
- ・ 教えにくいLSについて
- ・ 教育者としてどのように行動すべきか、すればいいのか。
- ・ 講義に入るのかはわかりませんが、受け入れの体験談など
- ・ 今後の実習指導薬剤師継続方法について
- ・ 在宅をしている薬剤師の話。具体例など。
- ・ 指導の成功例について
- ・ 指導者の評価についての展望、多種の薬局がある中で振り分けによる学生からの評価など
- ・ 指導薬剤師に対する具体的な学生に対するカリキュラムの指導方法。

- ・指導薬剤師の声や大学側の声をフィードバックや、望ましいこれからの指導についてなど
- ・実際、実務実習受入をして感じたん、反省点
- ・実際に実習をおこなってみての問題点、改善点など
- ・実際に実習を受入れている施設の報告など
- ・実際の体験をもとに、実例を挙げての講演があればいいと思います。
- ・実習での工夫点
- ・実習の質を確保するためにどうすればよいか
- ・実習を行った上での指導薬剤師の感想、今後の対策など現場の声。
- ・実習を受けた学生や指導薬剤師が感じた反省点・問題点のフィードバックさせる講演があればよい
- ・実習生のやる気を引き出すにはどうするべきかの講演
- ・実習評価システムの統一について
- ・実務実習の現状と今後の課題について
- ・実務実習への改善点や要望などのアンケート調査
- ・実務実習を行った後の施設側と学生側、大学側のより具体的な意見や問題点、改善できたことなど。
- ・実務実習を行なった中でトラブルとその解決方法。お互いに向上できた内容など実際のエピソードをたくさんまかせてほしい。
- ・処方権の問題
- ・将来の薬剤師活動(薬事法と医療法にもとづくもので、絵にかいた餅にならない内容)、国外の薬剤師の活動
- ・情報が不足するので最先端治療などの話が聞きたい
- ・情報収集・整理術、カウンセリング術、ユーモアを交えた話術、コーチング術など
- ・申し訳ありません。ワークショップでこのような講演があったことを覚えていませんので、白紙回答します。
- ・他の薬局がどのような実務実習をしているか
- ・地域医療における薬剤師の関わりについて理想と現実のギャップを埋めるには
- ・中島先生、木内先生、原先生のレクチャ
- ・内容を忘れてしまいましたので 資料を用意して欲しい。
- ・認定実務実習指導薬剤師の条件(認定薬剤師の増大を図るため現在よりも条件を緩くする)
- ・評価方法、特に形成評価
- ・目指医療と現実医療の違い
- ・薬学教育の今後、専門薬剤師育成について
- ・薬学教育を6年生にして得られたものと、失ったものについて。
- ・薬学生の実務実習の社会的意義と認定実務実習指導薬剤師の社会的責務
- ・薬剤師の職能の将来性(生き残る為には)
- ・カリキュラム作成には役に立った
- ・コアカリキュラムを見ながら、資料を見直すことが出来た。
- ・これから活用します
- ・タイムスケジュールや、目標の一覧表など、資料は有効に活用させていただいた。
- ・チェックリストと評定尺度の使い分け方
- ・どのように実習すればよいかわかった
- ・なにをするにも手探り状態なので色々参考になった。
- ・フィードバックするときに役立った
- ・“ほとんど見返す事がなかったが、なんとなく体が覚えていて自分の行動が自然に身についた気がします。
- ・今、資料を読み返すと良くわかります。”
- ・ワークショップが普通過ぎて、詳細は覚えていないが、役だっているはず。
- ・ワークショップの内容の振り返りに役立った
- ・安全対策についての説明。薬剤師の心構えについての説明
- ・一度では理解できません
- ・一般目標や行動目標や評価等の概念を知る上で大変役に立った。
- ・課題を作るとき、学習目標記述のための動詞に気をつけて質問文を作り、評価しやすくすることができた。
- ・学生の指導
- ・学生を中心に考えること
- ・気になる点を再確認できる。
- ・教育評価について概念がつかめた。
- ・教育用語の復習
- ・見直すことによって復習できた
- ・後から見返せるので、実習期間中に考え方の参考になった。
- ・後から読み返し学習できた。
- ・再度目を通し評価の仕方について確認できた。
- ・参考資料として使用した
- ・指導の手引き
- ・指導内容の確認
- ・資料が配布されていたので見直すことができ、また記憶でなく文字で残っているのが確実であると思います
- ・資料を参考に講義できた。
- ・時間割作成時などに利用した
- ・自分で作成したスライド及び・配布された資料とを使い、充実した指導内容となった
- ・自分のイメージ作りに役立った
- ・自分の認識の確認に使った
- ・自分の分担のレポートを仕上げる時、用語の意味や解説図が見やすく有難かった。
- ・実際に受け入れるまでに1年の間隔があったので、正直覚えていないこともあったので復習の際に役に立った。
- ・実習が始まっても見返すようにしている。
- ・実習が始まる前までに様々なところから同じ内容の資料など多数来たのでこの時に何をもらったか覚えてません たぶん理解はしていると思います。
- ・実習の途中で読み返したりした。
- ・実習生への接し方で参考になっている。
- ・実習生を迎える準備段階で再読して、教育する立場の再確認をした
- ・実務実習カリキュラムを理解するのに役立った
- ・実務実習モデル・コアカリキュラム
- ・実務実習上の問題(sb0s)整理等にやくだった
- ・初めてだったので無ければ実習をスムーズに行うことができなかったと思います。時間を有効に使えました。
- ・初めての言葉が多かったので、基本に戻るときに助かった。
- ・職場スタッグに教育用語と考え方を説明する時に資料として使った
- ・振り返りに利用出来た
- ・測定しようとする行動と評価方法

【記述 18】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(10) 配布資料について

② 配布資料は実務実習を行う上で役に立ちましたか。
役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・「学習者に価値ある変化をもたらす」というワークショップの趣旨。
- ・DALE の円錐による学習効果
- ・GIO・SBO などの確認
- ・KJ 法、二次元展開法の教え方で実習の優先順位を決めた。
- ・KJ法などあまり造詣が深くないことを理解すること。
- ・WS に参加していない薬剤師も実習に携わっており、カリキュラムや目標、方略、評価を理解してもらった資料を作成するのに活用した。
- ・あらかじめ繰り返し理解するのに役立った。
- ・カリキュラムの作成。

- ・測定しようとする行動と評価方法の図を実習中に確認することがあった。
- ・大学への連絡事項。
- ・知らなかった言葉の続出に対応できた
- ・当日も実際の実習においても活用できる内容であった
- ・到達目標などを決定する時思い出した。
- ・特に評価方法は多数あり、個々の能力により、選択肢がたくさんあるので助かる。
- ・悩んだり、行き詰まった時に軌道修正するのに役立ちました。
- ・配布資料とはどのことでしょうか？
- ・評価を行う時に参考にしました。
- ・評価方法について。
- ・評価方法の再確認の時
- ・評価方法の選択
- ・聞き慣れない言葉の再確認として
- ・兵庫区薬剤師会からの「困難な SBO's 対策支援ツール」DVD
- ・方略に行き詰ったときに見直すことがあった
- ・方略を立てやすく、学習目標を示しやすかった
- ・方略を立てるときなどに、復習をしながら行うことができた。
- ・忘れていたことを思い出させてくれる
- ・忘れても見直しで思い出せる
- ・目標、方略、評価を振り返るうえで重要である。
- ・目標を設定するとき
- ・問題解決など
- ・薬局に戻り、具体的なプランを作成する上で振り返りつつしりよう作成ができた
- ・薬剤師の持つべき倫理観

【記述 19】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(10) 配布資料について

③ 配布資料を実務実習を行う上で活用しましたか。
活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ DALE の円錐から印象度の高い方法で実務実習になるよう心がけることができた。
- ・ DALE の円錐による学習効果を意識した学習方法の選択
- ・ GIO や SBOs など用語の再確認
- ・ RUMBA は参考になった
- ・ SGD で論点が趣旨からずれそうになると、資料に戻り、確認しながら討論した。
- ・ SGD を開催時、KJ 法を 1 度利用した。
- ・ SOBs の定義や知なのか態なのか考えてカリキュラムを立てるようになった
- ・ アンケート。
- ・ カリキュラム、目標設定、評価表など
- ・ カリキュラムや目標の設定時に参考とさせていただきます。
- ・ カリキュラム作成のさい 参考にした程度です
- ・ カリキュラム立案の計画図の順序や略記号等は役に立った。
- ・ これから活用します
- ・ すべての資料が実習中の教科書になった
- ・ タイムスケジュール作成時やワークシート作成時に参考資料として活用した
- ・ デールの円錐などの図説
- ・ デールの円錐の考え方
- ・ どのようにアプローチしたらよいかわからないとき、まずはそのまま利用しました。
- ・ どのように実習すればよいかわかった
- ・ もう少し具体性を持った資料にして頂ければ活用できたと思います。
- ・ ユニットの SBOs の知識・技能・態度をベースに実践できた
- ・ ワークショップの復習・確認

- ・ 一般薬販売の手引き
- ・ 各項目の評価に活用した
- ・ 学習方法は参考にした。
- ・ 学習目標の三分類、認知・精神・情意領域と知識、技能、態度・習慣などについて参考にしながら実務実習評価を学生と共にに行った。
- ・ 学生が学んでいるであろう言葉を抽出し、実際の会話の中で活用し、学生の反応を確認する
- ・ 学生が感じた問題点を解決する方向に話を進める際にひとつの方策として利用した。
- ・ 学生に教える際の、この LS は、講義→ロールプレイ→患者さんへの対応などの優先順位を決める。
- ・ 学生実習計画は、資料モデルパターンを基に準拠するようにした
- ・ 教えにくい LS 課題集
- ・ 教育評価の部分
- ・ 形成的評価と総括的評価の特徴
- ・ 計画作成に参考にした
- ・ 言葉の意味を確認した
- ・ 言葉の意味を調べる。
- ・ 参加型実習についての学習方略について
- ・ 参考資料
- ・ 指導内容の確認
- ・ 資料を参考に講義できた
- ・ 実際の作成に参考。
- ・ 実習スケジュール作成時に参考にした
- ・ 実習と絡めるまで至りませんでした。
- ・ 実習の意義や目的、方略の作成や評価方法などを振り返ることができた。
- ・ 実習指導の手引きを参考にしながら、その他の書籍や資料を準備した。
- ・ 実習生に薬剤師の持つべき倫理観の説明
- ・ 実務実習における 11 週間のスケジュールは、実習スケジュールを立てるのに役立った
- ・ 実務実習モデル・コアカリキュラム
- ・ 上記②の資料や他県薬剤師会の資料をホームページから使わせていただきました
- ・ 色々な用語があり、混乱した時には新たに見直すことができた。
- ・ 振り返りに使用
- ・ 専門用語(SBOs など)から説明すること、簡略化
- ・ 知識として役に立ちました。
- ・ 調剤のイロハ(ピッキング、軟膏練り、散薬の混合などの仕方)
- ・ 到達目標など具体的に教えることが解り役にたった。
- ・ 同じ方法で学生にツールの作成をさせた
- ・ 日薬・県の薬剤師会が中心となって、具体的な指導内容のスライドや参考資料が整備されていたので活用した
- ・ 評価など
- ・ 評価の仕方
- ・ 評価の方法
- ・ 評価方法
- ・ 評価方法、学習目標記述のための動詞
- ・ 評価方法などについて
- ・ 方略、評価等を再確認できた。
- ・ 方略については常に参考にしている。
- ・ 方略を立てる時、評価方法を工夫する時
- ・ 本質的なことは当該資料に記載されているが、現実では薬学生実務実習指導の手引きを利用
- ・ 問題点のまとめ方
- ・ 薬局製剤について

【記述 20】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(10)配布資料について

④ 現行の配布資料以外に配布した方がよい資料があれば、
具体的にご記入ください。

- ・「医療人教育改革」のレジュメ
- ・KJ法の絵や目標の山脈の絵や問題解決のプロセスの絵の資料があっても良いかと思えます。
- ・SBOsが抽象的すぎて、具体的に何ができるようにしてほしいか？という記述の資料がほしい
- ・じつむじしゅうに使用するマニュアル(統一されたもの)。具体的な学習の物的資源
- ・デジタルデータで配付していただけるとありがたいと感じた。
- ・どのような配布資料なのか、わからない、いつ配られた配布資料でしょうか？
- ・ワークシートで教える薬局実務実習指導ガイド
- ・ワークショップの前の段階での予備知識の資料 自分にはワークショップで理解度がついていけない部分があったため
- ・わかりにくい医療薬学用語集(SP研究会作成など)
- ・一連の実習の流れをモデルケースとして何例かご紹介頂けると更にわかりやすかったように思います。
- ・各実務実習施設で使用されている内容の資料等
- ・学生アンケートなどのフィードバック
- ・学生と共通の教科書でできるもの
- ・学生への共通の指導内容の部分の資料(たとえば、薬事法の内容など)
- ・学生心理に関する内容
- ・教えるにくいLS課題集
- ・教育プログラムの具体的な指導内容の例示。必要な実習項目と努力項目を明確に示したもの
- ・教育用語は全く初めて聞く言葉ばかりだったので、当日配布された説明の資料は前もって欲しい。
- ・教育論、人材育成等の追加資料或いは資料の紹介を実習期間中、随時配信頂けると心強い
- ・抗がん剤治療のレジメンなど。
- ・資料はこのWSを行う上で、これ以上増やす必要はないと思う。
- ・実際にどのような課題を使って実習をおこなっているのか参考になるような資料
- ・実際の実務指導で使われるLSとその内容について触れた資料があれば、実習にもっと具体的に役立てられるかと思いました
- ・実習ツールの紹介、斡旋などの一覧表があれば必要に応じて活用したい。
- ・実務実習テキスト
- ・実務実習で使用されているカリキュラム
- ・実務実習指導の手引きや薬局実務実習指導ガイドなどをベースとして指導しました
- ・出版本・CDなどを購入して活用しました。
- ・専門用語が多く、後で復習するのに資料のみでは理解の難しい箇所があった。参考となる図書、ホームページ等を加えて欲しい。
- ・提供された資料は、充実しており、不満はありませんでした
- ・特になし、自身で探し印刷活用しているため
- ・日経DIが出版している資料
- ・配布資料をもう少しわかりやすい言葉や表現で示して頂ければありがたいです
- ・評価の具体的な方法
- ・用語辞典
- ・例題。
- ・練習問題や課題の達成確認が出来るような資料を多くして欲しい

【記述 21】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(11)特に難しかった教育用語があれば、お書きください。

- ・ Blue Print
- ・ Daleの円錐、三領域など
- ・ Evaluation Taxonomy
- ・ GIO
- ・ GIO SBO
- ・ GIO SBOs
- ・ GIO SBOs KJ法
- ・ GIO,SBOでの動詞の使い方
- ・ GIO, SBOs
- ・ GIO, SBOS
- ・ GIO, SBOs, LS, 形成的評価
- ・ GIO, SBOs, 方略
- ・ GIO, SBOS, 方略
- ・ GIO, SBOs? もう自分が参加者だった時のことは忘れてしまいました
- ・ GIO, SBOsなどは耳慣れないので何を指すのかをいちいち考えなければならず、わかりにくかった。
- ・ GIO:言葉は難しくないが抽象的で大きくなりになるため作成が難しい。
- ・ GIO・SBOsなど普段聞きなれない用語が使われている点
- ・ GIO・方略
- ・ GIOとSBOsの関連付けが普段聞きなれない用語のため戸惑った
- ・ GIOとSBOsの区別、コースとユニットの区別。細分化されてよくわからない。
- ・ GIOとか略語がはじめてだったので、一方的に感じた。
- ・ GIOやSBOsなど普段なじみのない略語
- ・ KJ法
- ・ LS
- ・ LS
- ・ LS SBOs GIOなど
- ・ LS, SBOs等で使われる教育に関する用語。ふだん使い慣れていない。
- ・ SBO
- ・ SBO, GIO
- ・ SBO, SGD, GIO
- ・ SBOs, GIO
- ・ SBOs, GIO
- ・ SDO
- ・ SPICES MODEL
- ・ Taxonomy
- ・ TF, Taxonomg
- ・ Three Domains(三領域)
- ・ WS内で説明されなかった資料の用語がわかりませんでした。(6-10)
- ・ ここまではチェック入力できませんでした。申し訳ありません。
- ・ コンセンサス
- ・ コンセンサスゲーム
- ・ コンセンサスゲーム
- ・ コンセンサスゲーム このゲームの事を何というとか聞かれたらコンセンサスとは出てこない
- ・ どれも普段使わない用語であり、意味を確認しながらでないと理解が難しかった。
- ・ ほとんどの用語が普段使い慣れていないため、なかなかピンとこなかった
- ・ ほとんど全て。初めて聞く言葉ばかりでした
- ・ ほぼ全部、直訳的なカタカナや、普段見聞きしない英語など
- ・ ルンバ

- ・ワークショップで使用されている言葉がそれぞれ解りにくい。例えば方略(方法でいいのでは)、学習資源(道具でいいのでは)
- ・ワークショップの初日はGIOとSBOsがわかりにくく混乱した。
- ・意味の分かりづらい言葉だらけでした。
- ・一般目標、行動目標、学習方略
- ・何が教育用語なのかもわからなかった。
- ・学習方略
- ・学習方略
- ・学習方略
- ・学習方略 SBOs
- ・学習方略 形成的評価 総括的評価
- ・学習方略(LS)
- ・学習方略、SBOs等普段使わない用語
- ・学習方略LSと学習方法を混同してしまった。
- ・学習方略の内容をつかむのが難しかった。
- ・学習方略。(学習方略と行動目標は、必ずしも対になっていないため)
- ・学習目標の三分類(認知・精神・情意)について学習するのは初めてで理解が難しかった。
- ・学生たちには専門用語アレルギーがあるので、気を使って指導してきましたが、今回のワークショップは専門用語から始まったような感じがしたので、我々指導者にも専門用語アレルギーがあるのだと痛感しました。
- ・教育学であることはわかるがなぜ英語ばかりで、日本語の専門用語が少ないのが少々疑問
- ・教育用語は、全て難しかったです。

【記述 22】

3. ワークショップに参加して
参加型研修(ワークショップ)について
役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・あまり役に立っていません。
- ・どの施設でも同じような悩みや状況が把握できたことと、大学側の考えが聞けたことが役立ったように思われる。
- ・ワークショップについて理解できた。
- ・ワークショップに参加したのが数年前なので、ある種の感動をした覚えは有るが具体的に役立ったか?ときかかれると不明。2日間は長くは有るが、何かを学びきるには、難しいものがあると思う。心構えができたくらい。
- ・ワークショップのやり方を学ぶことが出来た。
- ・一つのテーマに対して皆で話し合えたこと。
- ・家の建て替え、家族会議
- ・介護施設での実習
- ・会社の研修
- ・機会がないので参考になった
- ・教育方法、プランニング
- ・業務の問題点の抽出や解決の方法として役に立つと思うがまだ活用していないので役に立ったとはいえない。
- ・勤務薬剤師への教育
- ・自己向上
- ・社内での研修
- ・社内の研修
- ・社内教育
- ・社内教育研修
- ・所属施設により、重視点が異なることを実感できた。
- ・色々立場の薬剤師と接し、様々な考えを聞くことができた。
- ・新入社員研修
- ・全く役に立っていません。
- ・全体的に。
- ・全道各地の色々な施設の薬剤師の方たちと情報交換できたの

- はとても新鮮で参考になった。
- ・他の施設の人の考え方やレベルを知った。
- ・大学と現場のズレを痛感。
- ・大学の先生方の考えにふれて、意識を共有できた。
- ・地域での薬剤師会の業務推進(受入薬局集合研修)
- ・地域の連携
- ・通常のスタッフ教育において
- ・評価法について
- ・病院薬剤師の方たち、大学の教員の方たちと情報交換できたこと
- ・役立たなかった
- ・薬局業務での到達目標の作成について役立った
- ・薬局勤務以外の皆さんと、接する時間が持てたこと。
- ・薬剤師としてだけでなく、社会の一員として、また子育てをしている一人の母親としても大変有意義だった。

【記述 23】

3. ワークショップに参加して
参加型研修(ワークショップ)について
役立った業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・”参加型”を意識して実習を行うことができた
- ・GIO、SBOsが理解でき、実習生とスムーズに接することができた
- ・KJ法など討議、分析法
- ・KJ法に似た方法で問題点を抽出した。
- ・KJ法や樹形図にして内容を整理する方法は、薬局業務に限らず、いろいろな場で応用されていることなので、その思考法を学んだことが、物事を理解するうえで役に立っています。
- ・KJ法を用いて問題に対応した
- ・LS、GIO、SBOsの活用
- ・LS・薬剤師の心構えの説明
- ・P-N-Pという考えで活動できるようになった。
- ・SGDが会員相互の理解を深める。
- ・SGDの体験
- ・WSでは自分自身も学ぶ立場に立つことができ指導する時にどのように指導したら効果的かが分かった
- ・WSの内容は日常業務にも十分活かすことができる内容である。
- ・いろいろな人の意見が聞けた
- ・カリキュラムの立案にも役立てたし、実習をする際のフィードバックの重要性がよく解った
- ・カリキュラムプランニング
- ・カリキュラムを作成するにあたり、流れがなんとなくわかった。
- ・カリキュラム作成の手法を体得できた。
- ・グループダイナミクスについて
- ・グループディスカッションの進め方が分かった
- ・こちらもどのように接するべきか学べました。
- ・この研修を受講前ですが、薬剤師会研修会をワークショップ形式で実施している
- ・さまざまな年齢層の方と同じテーマについてディスカッションできたこと
- ・スケジュールの作成
- ・セルフメディケーションについては他の先生方と考えを共有できたこと、患者の意識がまちまちで薄いため指導が難しいなどを検討したが、学生に話す場合の準備として役立った
- ・セルフメディケーションの意義
- ・それぞれの週のLSの日割りスケジュールの作成
- ・タスクとして
- ・プレ・ポストアンケートを取り入れ、講義の内容が参加者に理解されたかを反省することができた

- ・モチベーションが上がった
- ・モチベーションが上がった。
- ・モデル・コアカリキュラムの意味が理解できた
- ・ワークショップ形式。今の授業で取り入れられていること
- ・ワークショップ参加で大学・病院・薬局の実務実習の考えを理解でき、協力体制に繋がった。
- ・ワークショップ自体は無我夢中であまり覚えていない。
- ・意見を述べる、主張することの大切さ
- ・違う視点で見ることが、大切、多数決でない意見
- ・違う立場の方々意見などを伺うことが好きで、他人と話すことが自分にはストレスではないんだと再確認できたこと
- ・医療人としての意識
- ・医療人としての責任を改めて認識した。
- ・医療人として使命の自覚
- ・一人ではできなくても2人で考えて話してもらうこと
- ・一人薬剤師なので、情報交換ができる薬剤師ができたこと。
- ・皆さんの立場で考える事ができた。コミュニケーションを上手く行えた。
- ・学習者の行動に価値ある変化をもたらすことを考えてカリキュラムを作っていくこと
- ・学習目標
- ・学生と向き合っって学習内容を理解しているか確認しながら実習を進められた点
- ・学生に考えさせる。指導者も一緒に考える
- ・学生に対する接し方
- ・学生の興味をひくためにどのような実習がよいか、話合ったのが、とても参考になった
- ・学生の立場に帰ったものの見方を認識させられたこと、指導する立場になることの責任の重さ・重要性を改めて感じられたこと。
- ・学生を中心に考える
- ・学生教育だけでなく、人材育成のために日常業務にて活用できる内容でした。
- ・学生受け入れへの意識が高まった。
- ・学生評価の方法や、大きな目標に対するアプローチの仕方。
- ・患者さんの実際の日常を肌で感じさせることが出来た
- ・患者様への話し方がどのようにしたら伝わりやすいかを考えるようになった
- ・議論を通して様々な認識・考え方を知ることができた点
- ・共に育つことの実践
- ・教育戦略の立て方
- ・教育側と受け手の問題を考える良い機会となった
- ・教育評価
- ・業務に対するモチベーションが上がった。
- ・業務の確認ができた
- ・業務の問題点などを、職員全員の意見を吸い上げ、検討できるようになった。
- ・業務をこなす上で、同僚や部下と前向きに討議できるようになった。
- ・業務を系統立てて実習できた
- ・具体的な目標を提示し、営めて育てよ、という事。
- ・形成的評価
- ・形成的評価の考え方は良かったです。
- ・決められた時間内でのディスカッションをして、考えをまとめ、発展させていく点。
- ・研修会を行う時にワークショップで学んだ参加型という考え方が役に立った
- ・見知らぬ場所で実習に取り組む学生の気持ちを想像できた
- ・現在の薬学教育状況を知ることができた。
- ・現在学生が学んでいる形式を学習できた。
- ・後輩を育てるという気持ちの重要性。
- ・考え方を教わった。
- ・講演会等の問題点を洗い出せた。
- ・項目がセルフメディケーションだったのでそのことを考えることができた
- ・今までに考えていなかったような新たな思考が有ったので再考する機会になった
- ・参加することでより自分のものに出来るようになった。シャワー型とは違った理解度が得られる。楽しい。
- ・参加型というものに慣れていなかったため
- ・参加型の学習法を心がけている。
- ・参加型の実習を意識しておこなえた
- ・参加型研修に物怖じしなくなった。
- ・参加型研修の方が、学習効果が上がると感じました。
- ・参加型研修の有用性が理解できた。
- ・参加者同士の体験共有、意見表出、コミュニケーションを深めることができた。
- ・仕事の具体的目標を立てることが出来た。
- ・指導するときどのくらい理解出来ているか、また、自分の教え方が合っているかが分かる。
- ・指導の仕方が現実にはわかった
- ・指導薬剤師も医薬品情報の再確認や新薬について改めて勉強する機会が増加した
- ・施設の中での問題点を探す時に役に立った
- ・自ら参加する事で、前向きな研修を受けることができた。
- ・自己の意識開拓
- ・自身で考える姿勢が身に付いたと思います
- ・自分の意見をわかり易く発言すること
- ・自分の思いを発言することが大切
- ・自分の施設で100%こなすのは無理なので、他の指導者等との連携の大事さ
- ・自分の実習場所だけでなく、他のところともかかわりがあると分かった点。
- ・自分自身が今の薬学生が受けている教育方法に触れられたことが有意義でした。内容はもちろん、担当して下さったスタッフのかたにも恵まれて、ワークショップに参加する前の指導とは今は全く異なった気持ちで行っています。
- ・実際に学生に参加型の実習をさせる時役立った。
- ・実際の行い方がわかりました。
- ・実習する時にこんなことして見たい等、色々な考えを聞き集約できたこと
- ・実習する時にこんなことして見たい等、色々な考えを聞き集約できたこと
- ・実習だけでなく、新人や部下の育成に役立った。
- ・実習での基礎となっている。薬剤師会での業務。
- ・実習のすすめかた
- ・実習の手續や意義を概括的に理解できた。
- ・実習の全行程において全般に役に立ちました。
- ・実習の方法論と計画を職員共同で作成し、分担して指導を行ない薬局職員間及び医療機関との連携強化が計れた。
- ・実習内容について大学とやり取りがスムーズだった。
- ・実務実習コアカリキュラムがGIOとSBOsから構成されており、またそれに対してLSも構成されている事を考えながら実務実習をすすめた。(ワークショップに参加するまではGIOやSBOsやLSについて理解していなかったため)
- ・実務実習で指導すべきことの心の準備ができた。
- ・実務実習における学生への対応が理解できた。
- ・実務実習のSBOの考え方がよく分かった。
- ・実務実習の集合研修で参考にさせてもらった。
- ・実務実習全般
- ・社会のニーズを意識して実習指導を行うようにし、他にも我々に求められていることに敏感反応できるようにしているつもり。
- ・社内での教育で使った。
- ・社内研修にSGDや発表を取り入れて実践している。
- ・手本を見せ、実際にやらせてみて、評価することの繰り返しで、学生に向上がみられた。

- ・ 受身実習や一方方向でない実習を行なえた。
- ・ 処方せんと調剤
- ・ 常にほかの人の参加を意識している
- ・ 職員の勤務態度の改善について皆で検討する機会をもうけることができた
- ・ 職場の他の薬剤師にモデルコアカリキュラム等の説明を行い、実習指導分担を行なったこと。
- ・ 色々な場所に勤務する薬剤師と知り合いになれた
- ・ 新人教育など
- ・ 人にものを教えること、真意を伝えること、ともに育つことを学ぶことができ、職場での新人教育にも役に立った。
- ・ 人を育てるときのノウハウを少し明確に考えて文章化することで意識して業務するようになった。
- ・ 人前で意見が言えるようになった。
- ・ 制限時間内に意見をまとめたりする事
- ・ 生涯学習(ワークショップ方式)
- ・ 積極的に意見を出し合い討論・作業を行い成果を生み出すという事。
- ・ 積極的に参加できる点、行動することで習得できる。
- ・ 足りない点は薬局間で補なおうとする機運を高めることが出来た。
- ・ 他のスタッフにも薬剤師としての学習法を伝えられた。
- ・ 他の意見を聴く機会がとても貴重に感じます。
- ・ 他の業種の方の意見が聞けた。
- ・ 他の勤務先の薬剤師との交流を通じて実務実習における不安感を払拭できた。
- ・ 他の指導薬剤師がどのような実習をやっているのか知ることができた。
- ・ 他の職域(大学教員、病院薬剤師さんなど)との交流が持てたこと。
- ・ 他の方の考えが聞けた
- ・ 他の薬局との交流ができた。
- ・ 他の薬局の考え方など県を越えて聞けた
- ・ 他業種の方と交流する機会を増やそうという気持ちになった。
- ・ 他業種の方と交流する機会を増やそうという気持ちになった。
- ・ 他施設の薬剤師の方々と交流を深めることができ、機に現在も一緒に地域での薬剤師活動に携わっている。
- ・ 体験することにより、深く記憶に残る。
- ・ 大学、病院の方々との交流
- ・ 大学・病薬・薬局と連携しての取り組みであることを実感できた。
- ・ 大学や病院薬剤師の先生方の意見や思いを実際に聞くことができたことが薬局薬剤師としては何をすべきかを学べた。
- ・ 知り合いが増えた。
- ・ 地域での薬剤師会の業務推進(受入薬局集合研修)
- ・ 地域で実務実習生を集めてWSを開催しているが、学生相互のモチベーションの維持に役立っている。また、新たな視点が広がり意識の変化が見られて有効だ。
- ・ 地域とどのように関係を構築していくか
- ・ 地域連携を取る手段への活用
- ・ 地区の薬剤師会でも、KJ法を用いたSGDを行うようになった。
- ・ 長期に実務実習を行う理由が理解でき、これからの薬剤師に夢も与えたいと思ったこと。(自分の姿勢の変化)
- ・ 店舗、社内教育
- ・ 討議をすることの必要性和楽しさがわかったこと。
- ・ 討論のまとめ方
- ・ 同業・異業問わず他社の薬剤師と知り合い互いの活動を知るきっかけ、人脉形成になった。
- ・ 特に評価という点でかなり有用であった。自分も同様に研鑽しなければと実感した。
- ・ 独自の勉強会でスモールグループディスカッションを取り入れた
- ・ 内容が理解できている

- ・ 日常業務全般に対する取り組み方の視野が広がったと思う
- ・ 能動的に行動する姿勢が身についた
- ・ 発表したり、内容について討論する事
- ・ 評価法
- ・ 病院、大学側の考えが具体的に感じ取ることができた。
- ・ 病院、大学側の考え方が理解できた
- ・ 病院、薬局、法人等関係なく、薬剤師であることに対する連帯感が生まれた
- ・ 病院でどのような内容の実習をするのかが分かった。
- ・ 病院や大学との連携(人間関係構築のきっかけ)
- ・ 病院勤務薬剤師との意見の共有
- ・ 病院薬剤師、大学教員との交流を深めることはできた。それ以外に役立ったことは????
- ・ 普段は違う職場にいる人たちの様々な意見を聞くことができた。
- ・ 部下の育成、業務目標の立て方。
- ・ 複数意見を取りまとめ、重要度別に分類し決定した。
- ・ 命を預かる大切な仕事をしている重さを痛感した
- ・ 目的に対する構成手順を新たためて認識した
- ・ 目標の立て方・評価の仕方など
- ・ 目標作成、方略の作成
- ・ 目標設定、方略、評価といった概念を持って学生に接しられたと思う。
- ・ 目標達成には方略を決めていけばたどり着くという点
- ・ 問題に対して話し合い、それぞれの意見を出し合いながら、目標に到達することの大切さが分りました。
- ・ 問題の抽出や、解決の優先順位の決定
- ・ 問題抽出とその解決策の方策を理論的に考えることができるようになったこと。
- ・ 問題抽出とその解決策の方策を理論的に考えることができるようになったこと。
- ・ 問題点の抽出と対応策(マスタープラン、アクションプラン)の立て方
- ・ 問題点の把握が皆で共有できる
- ・ 問題点を共有できたこと、特に大学などの参加者の考え方がわかったこと
- ・ 問題点を抽出して解決していくことを系統立てて考えられるようになった。
- ・ 薬学教育のなかで、共通認識(共通の言語のような)ができたこと。
- ・ 薬局もチームワークが必要で意思疎通がないと円滑な業務にはつながらないと改めて認識しました。
- ・ 薬局業務において視野が広がった
- ・ 薬局薬剤師-病院薬剤師-大学教員の間の交流ができた
- ・ 薬剤師という仕事をもう一度見つめ直した事です
- ・ 薬剤師会の地区地域での講習会で理解しやすかった。
- ・ 様々な交流が出来て、その後も継続している。
- ・ 様々な立場の人の意見や考え方にふれることができる。

【記述 24】

3. ワークショップに参加して参加型研修(ワークショップ)について活用した業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ サプリメントについて栄養士を招いて講義をしてもらう等のはずかしい意見は持てない 薬剤師なので自分でします
- ・ 会社の研修
- ・ 活用していません。
- ・ 活用しなかった
- ・ 活用できていない。
- ・ 患者の集まりで薬関連の説明をしたとき

- ・勤務薬剤師への教育
- ・講習会開催をワークショップ形式とした
- ・実務実習を進めていく上での問題点を共有できた。
- ・社内での研修
- ・社内教育
- ・新入社員研修
- ・全く活用していません。
- ・全体的に。自分の意識として。
- ・地域での薬剤師会の業務推進(受入薬局集合研修)
- ・通常のスタッフ教育において
- ・店舗の方向性を検討する際に同じ方法を行った。カリキュラムプランニングなど。

【記述 25】

3. ワークショップに参加して
参加型研修(ワークショップ)について
活用した業務・活動
役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・「参加型」を意識して実習を行うことができた
- ・「役に立つ」から「活用する」。二つに分ける必要なし。
- ・1つの問題でも、いろんな意見、考えがあることを知ることができた。
- ・4年生実習時より、細かく目標達成に向けて一緒に行動する事ができた。
- ・GIO、SBOs、LSを整理してとらえることができた。
- ・KJ法
- ・KJ法 SGD などの問題解決方法
- ・LS
- ・LS守秘義務を守る(態度)の説明
- ・SBOsの評価方法
- ・カリキュラムプランニング
- ・カリキュラム作成時のLSの組み立て。
- ・グループディスカッション等、参加型の研修会を開催したことで、目的意識の共有が図れた
- ・これから始まる薬業連携のときにもコミュニケーションが取れた。
- ・スモールディスカッションで
- ・タスクとして
- ・フィードバックしながらの指導
- ・ほめ方を学びました。
- ・やはり基本を知っていないと教える際に自分本位になりがちな気がする。
- ・より自覚が芽生えた。
- ・より積極的に参加、意見発言をすることの重要性がわかった
- ・意識して複数回の質問をする事で理解度の再確認ができた。
- ・井の中の蛙にならないよう勉強しようと思った。
- ・一人薬剤師なので、偏りがあったように思うが、他の人の情報を加えるようになった。
- ・会議、研修
- ・会議で活用した。
- ・会社の研修、勉強会で。
- ・学習目標、方略
- ・学生、部下の育成
- ・学生・薬剤師参加の実務実習を行なった。
- ・学生との接し方
- ・学生と向き合って学習内容を理解しているか確認しながら実習を進められた点
- ・学生と討論する際に役に立った。
- ・学生の評価
- ・学生への評価
- ・学生や新入社員を養成する時活用した
- ・教育戦略の立て方
- ・業務をこなす上で、同僚や部下と前向きに討議できるようになった。
- ・勤務先での合同研修で『参加型』を導入した。
- ・禁煙支援サポーター養成講座の形式にWSを取り入れた
- ・具体的な学習方法の設定
- ・具体的な目標を提示し、誉めて育てよ、という事。
- ・形成的評価
- ・掲示物、必要書類の確認ができた
- ・現場での仕事内容の再点検をすることができた。
- ・個人の意見が多くでた。
- ・講義だけでなく自分の意見を言う方法の積極性が業務に役立った。
- ・高齢者疑似体験勉強会
- ・災害時の調剤
- ・在宅集合研修他幾つかの研修を地域内で行うことが出来た。
- ・参加しなければ実習を受け入れられなかった。
- ・参加型の講演会などに変更してみた。
- ・参加型薬学教育(特に実務実習において)を充実させ、魅力的な薬剤師教育を進められた
- ・指導者としての姿勢
- ・指導内容が網羅でき、進捗状況を把握することができたこと
- ・指導薬剤師、他の実習生とディスカッションを行った
- ・自身で思ったことを実習生・現場に伝えることができた
- ・自分が研修をとおして感じたことを実体験として話ることができた
- ・自分の意見をわかり易く発言すること
- ・自分達も参加型として実習指導ができたこと。
- ・実習で座学より実務に重点を置き進めたこと
- ・実習の指導の方法
- ・実習計画をみんなで作る。重要度を分けて考えていく
- ・実習方法として実務実習に取り入れた。できるだけやらせてみることを実行した。
- ・実習目標の分類
- ・実務実習において、学生と理解度、進行具合を何度も話し合いを持って実施した。
- ・実務実習において根気よく指導を行う事が出来た
- ・実務実習の集合研修で参考にさせてもらった。
- ・実務実習の集合研修時に活用
- ・実務実習全般
- ・社内での研修会にワークショップを取り入れてみたりしました
- ・社内研修にSGDや発表を取り入れて実践している。
- ・社内勉強会の企画時など能動的に関与できた
- ・受け入れ側も日々の業務の確認ができた。
- ・従業員に伝えるだけでなく、意見交換をしてコミュニケーションを図ることができた
- ・従業員の教育システムを改善できた。
- ・出来るだけ体験させてみる事を考えた。
- ・少数意見でも提示された意見は大事にする。
- ・職員間での薬局業務の再確認による意思統一及び業務改善。
- ・職場の目標設定
- ・新人・新入社員の薬剤師教育に活用
- ・新人教育
- ・新入社員の指導にも、目的意識を持たせることはとても重要だと感じ、それぞれのカリキュラムにSBOsを設けた。
- ・人それぞれ考えを持ってるので、一つのことに向かっていくには方法がいくつかあり、必ずしも1つではないことを考えさせられたこと
- ・人それぞれ考えを持ってるので、一つのことに向かっていくには方法がいくつかあり、必ずしも1つではないことを考えさせられたこと
- ・人材育成
- ・積極的に発言するとより研修が楽しくなる事がわかったので、

他の参加型研修でも積極的に行えた。

- ・ 創造性、問題解決能力の向上、自発的な作業と発言を意識することができた。
- ・ 誰かがおっしゃった言葉「サルでも解るような説明」を聞いてなるほどと思った
- ・ 短時間で効果的な結果を導き出す訓練が少しできるようになった。
- ・ 知り合った人脈を頼りに業務に役立てた
- ・ 地域での研修会に参加できた
- ・ 地域での在宅業務の薬剤師とのかかわりについて講演に役立った
- ・ 地域での薬剤師会の業務推進(受入薬局集合研修)
- ・ 地域で参加型研修会を開催した
- ・ 地域とのコミュニケーションがとれた
- ・ 地域に役立つ薬局像について
- ・ 地域のワークショップに活用した
- ・ 地域の方への講習会の時に、実際に行って貰うような内容も取り入れました。
- ・ 地域医療の連携
- ・ 地域活動での目標を立てるとき、GIO、SBOsを考えて作成することができた。
- ・ 地域活動においてWS形式の会議があり積極的な参加の重要性がわかる。薬剤師会の位置づけも認識できた
- ・ 地域薬剤師会の活動等。
- ・ 地区での実務実習でのミニWSへの参加
- ・ 地区薬剤師会研修会
- ・ 投薬を実際にみせて学生が取り入れやすくなった。
- ・ 当時参加型の研修は初めての経験だった。そこから得たモチベーションが今後の業務全体に役だっている。
- ・ 当薬局内での従業員教育にWS形式を取り入れた。
- ・ 内容が理解できている
- ・ 評価方法についてある程度理解でき、応用できたこと。
- ・ 病院との連携も図れた。
- ・ 服薬指導の基礎
- ・ 物事を取り決める時 SGD を利用した。
- ・ 目標作成・方略の作成
- ・ 問題の抽出や、解決の優先順位の決定
- ・ 問題提起する際にお互いに考えてみるという自分にとっては新しい方法。
- ・ 問題点が起きた時、その都度意見交換を行う。
- ・ 薬学教育のなかで、共通認識(共通の言語のような)ができたこと。
- ・ 薬局での患者との関係を具体的に知る経験を学生にさせることができた。
- ・ 薬局での業務の問題点について検討するきっかけになりました。
- ・ 薬局実習におけるカリキュラムの作成。
- ・ 薬局内のミーティングで活用した。
- ・ 薬剤師の立場だけでなく、事務側の思いを聞き入れることで業務が円滑になりました。
- ・ 薬剤師会への報告と講演、薬局内の情報管理室設立化
- ・ 薬物乱用キャンペーンに実際に参加させて現状を理解してもらえたと思う。
- ・ 薬業連携の実施
- ・ 様々な場面で、問題点の抽出と対応策(マスタープラン、アクションプラン)の立て方を応用し問題解決に活用

【記述 26】

3. ワークショップに参加して

- ② スモールグループディスカッションについて
役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ SGDの方法を知ることができたが、活用、利用できなかった。
- ・ あまり役に立っていません。
- ・ いろいろな方の意見を聞く、といことで、学生に自分を押し付けられない、ということを再認識
- ・ エリアでの集合研修の際
- ・ ちょっと意味がわかりません
- ・ プライベートでの話し合い
- ・ 以前は意見を言うのにためらいがあったが、意見をいうことが習慣づいてきた。
- ・ 意見を出し合って、議論する手法を経験できた。
- ・ 一つのテーマに対して皆で話し合えたこと。
- ・ 介護支援専門員の講習でも同形式を使用する
- ・ 会社の会議
- ・ 会社の研修
- ・ 皆で目標を達成するための話し合いのスキル
- ・ 覚えていません。
- ・ 研修会
- ・ 研修会
- ・ 個人で結論を出すことを迫られている立場だが、利点・欠点を幅広く考えて結論を出すようになった
- ・ 講習会など
- ・ 最近勉強会でよく使われますね。
- ・ 自己啓発
- ・ 自己研鑽
- ・ 社員研修
- ・ 社内ディスカッション
- ・ 社内での研修
- ・ 社内の研修
- ・ 社内教育研修
- ・ 社内研修
- ・ 職場でのちょっとした勉強会にも活用した
- ・ 新入社員研修、社内勉強会
- ・ 全体的に。
- ・ 地域の診療所(医療生協)の集会で今必要なことや、今後目指すものを議論するとき、この方法で実施した
- ・ 地域の薬剤師会での実務実習の会議にて。
- ・ 地域の連携
- ・ 特に役に立ったという意識はない。
- ・ 特に役立ってない
- ・ 毎日の業務中に行なうことは困難。指導薬剤師にか解からない事が多く、結局自分で決めた事を説明しただけ。
- ・ 薬剤師会での活動

【記述 27】

3. ワークショップに参加して

- ② スモールグループディスカッションについて
役立った業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 「社会における薬剤師の役割」について薬学生と店舗スタッフを交え SGD を行った。
- ・ 1対1でのディスカッションの進め方、
- ・ 4年制卒業者の社内研修に取り入れる際、実経験が役に立った。
- ・ KJ法
- ・ SGD が与える、協調を再認識できた
- ・ SGD のある講習会に参加した時に、スムーズに入ることができた。
- ・ SGDの利点、実施法が理解できた。
- ・ SGDを行ない事で、より良い物ができた。
- ・ SGD 行う事で、より良い結果が出ることを体験できました。